

第2回 高岡市復興会議

次第

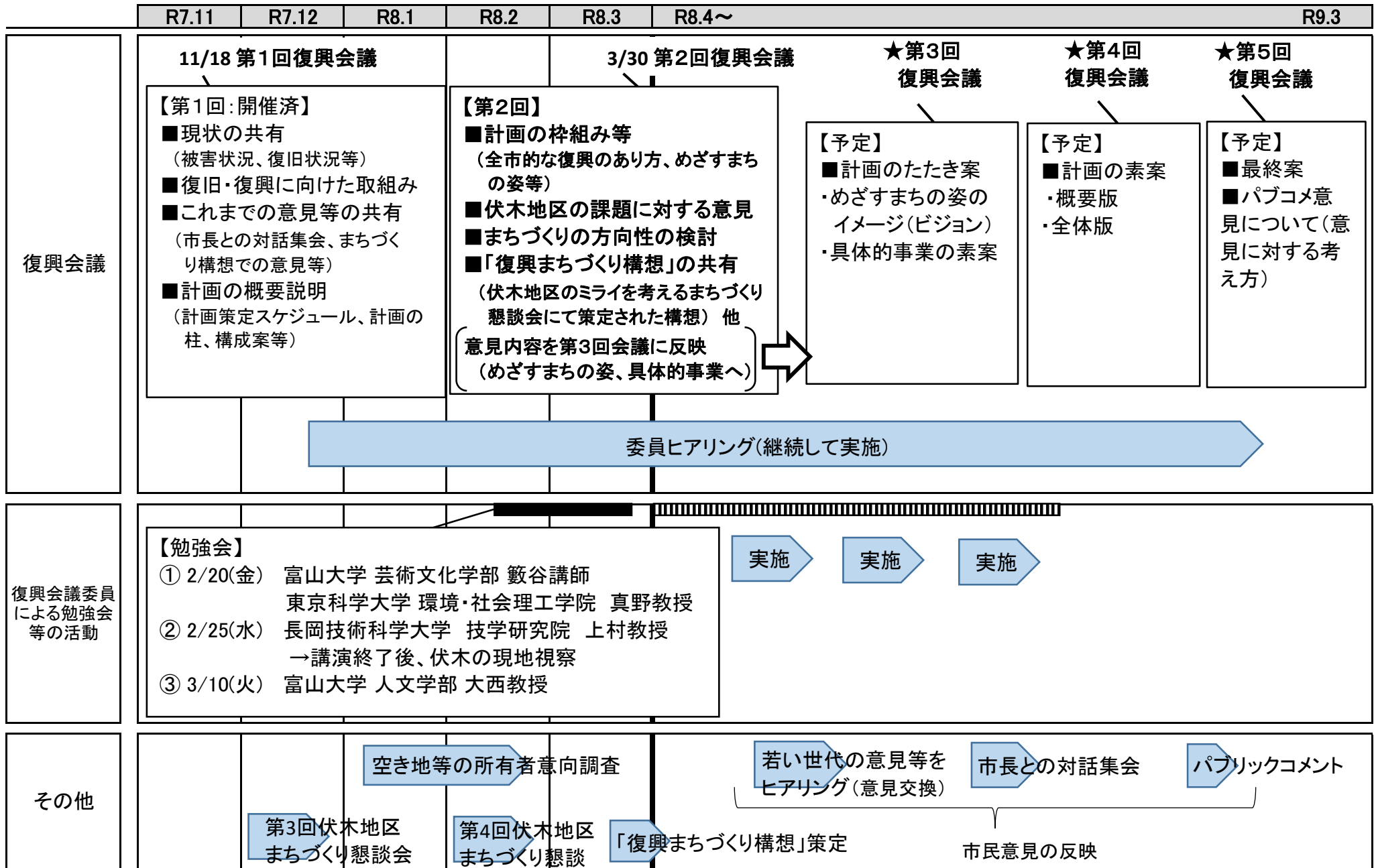
- 1 開会挨拶（市長）
- 2 事務局からの説明
 - (1) 計画策定スケジュール ……資料1
 - (2) 第1回復興会議以降の取組み
 - ・復興会議委員による「勉強会」 ……資料2
 - ・伏木地区の空き地等の利活用に関する意向調査 ……資料3
 - ・伏木地区の将来推計人口 ……資料4
 - (3) 復興計画の枠組み等（第1回復興会議以降の取組みを踏まえた整理）
 - ・「新たな復興計画」の構成案（第2回会議の議題） ……資料5
 - ・全市的な復興のあり方（案） ……資料6
 - ・めざすまちの姿（ビジョン）と具体的施策の位置づけ ……資料7
 - ・復興によりめざすまちの姿（ビジョン案のうち文言部分） ……資料8
 - (4) 検討事項
 - ・伏木地区の課題 ……資料9
 - ・将来的なまちづくりの方向性について ……資料10
 - (5) その他（紹介）
 - ・「復興まちづくり構想」（住民主体の復興まちづくり活動） ……資料11
 - ・「復興ベース（仮）」の試行（案） ……資料12
- 3 議題及び委員からの意見（意見交換）
 - (1) 復興計画の枠組み等（第1回復興会議以降の取組みを踏まえた整理）
 - ・全市的な復興のあり方
 - ・めざすまちの姿（ビジョン）
 - (2) 検討事項
 - ・伏木地区の課題
 - ・将来的なまちづくりの方向性
 - (3) その他（紹介）
 - ・「復興まちづくり構想」（住民主体の復興まちづくり活動）
 - ・「復興ベース（仮）」の試行
- 4 閉会挨拶（市長）

高岡市復興会議 委員名簿

委員名	所属団体・役職等	備考
出町 讓	高岡市長	会長
上見 弘昭	高岡市社会福祉協議会常務理事・事務局長	
大西 宏治	富山大学人文学部 教授／防災士	
川上 孝裕	富山県土木部 次長	
米谷 和也	学校法人清光学園常務理事(高岡龍谷高校)	
坂 廣志	伏木校下自治会連絡協議会 会長	
塩谷 雄一	高岡市観光協会 会長	
高田 裕	ふしき防災士の会 代表	
高畑 直樹	伏木商店連盟 副会長／中道商盛会 会長	
立野 晴之	高岡市消防団 伏木方面団 伏木湊分団長	
蜂谷 俊雄	金沢工業大学建築学部 教授	
八坂 徳明	高岡法科大学法学部 教授	
吉川 奈美	伏木小学校育友会 (PTA) 会長	

(敬称略・委員は50音順)

「新たな復興計画」策定スケジュール



復興会議委員による「勉強会」

震災復興に関する様々な事例を把握し、見識を深めることを目的に、委員有志の活動として「勉強会」を開催（3回開催：令和8年2月～3月）。

第1回

2月20日
実施

～伏木地区での復興まちづくり活動や過去の震災の事例から、復興に向けた大切な考えを学ぶ～

■富山大学 芸術文化学部 藪谷講師

復興のプロセスで大切にしなければならないことは「伏木らしさ」。建物が失われてしまったが、伏木らしさは人の関わりの中で生まれ続ける。「伏木らしさを議論し続ける場」が大切。

■東京科学大学 環境・社会理工学院 真野教授

多額の費用をかけたハード整備だけではまちは復興しない。復興事業の大きな計画の網の中で、住民が思考停止に陥らないまちの空気を作ることが大切。まちに関わる人が、小さなプロジェクトから始められて、多様なプロジェクトが派生する環境を作ること。被災者、地権者、商店主、移住者など各々が主体としての存在になれる環境が大切。

→新たな復興計画を策定する上で、住民意見の反映のため特に重要な「復興まちづくり構想」の策定プロセス、内容を把握

第2回

2月25日
実施

～復旧・復興と被災地支援（中越地震・山古志村の復興の事例から）～

■長岡技術科学大学 技学研究院 機械系 上村教授

- 復興の3原則は「地域社会の持続に心がける」、「歴史文化の継承に努める」、「被災者の自立を尊重する」こと。
- 復興は人それぞれ捉え方が違う。「子供や孫の世代に何を残したいか」を共通のテーマとして考えることが重要。人口減少を受け止めつつ、復興を考えること。

■伏木地区の視察を実施

震災発生当時の写真をもとに、伏木地区内を視察。令和7年8月の大雨の際に浸水被害のあったエリアも視察。



第3回

3月10日
実施

～伏木地区の人口データから考える地域ビジョン 30年後のありたい姿～

■富山大学 人文学部 大西教授

- 地域ビジョンを検討する上でまず大切なことは、人口は減っていくということを認識すること。地震がなかったとしても人口は減少する。地震により人口減少は早まり、大都市に比べて地方は長期的な減少となる傾向がある。
- 地域は時間とともに変化していくもの。人口減少が進めば、労働力人口が減少し、税収が減少し、公共サービスの維持が困難になる。そのような中で、20年先、30年先の地域のあり方を具体的に考える必要がある。
- 今地域に暮らしている住民が「地域のありたい姿」を考えて、何をするのかを考えることが大切。未来は誰かが作ってくれるのではなく、自分で作るもの。ありたい姿と意思決定と実施の主体は「住民」である。

全体を通じての
共通認識



人口減少を踏まえて復興を考えること、住民が主体となること

伏木地区の空き地等の利活用に関する意向調査（結果概要）

【調査の概要】伏木地区の空き地等の所有者に対し、利活用の意向等を調査

- 調査期間：令和8年1月9日（金）～令和8年2月13日（金）
- 調査対象：調査期間中に建築物が存在しない土地（空き地や駐車場等）の所有者 269 名
 ※調査対象者は、空き地等の現況と不動産登記情報をもとに抽出。
 ※郵送による調査
 ※調査対象範囲は末尾に記載
- 対象者数：269 名のうち本調査票が到達した 241 名
 ※残 28 名は不動産登記情報では現在の所有者住所が不明のため本調査が未達の方
 ※241 名の内訳…伏木地区在住 153 人、伏木地区以外の市内在住 37 人、市外在住 51 人
- 回答数（回答率）：144 名（59.8%）

【1】空き地の利用状況

■令和6年能登半島地震以前（令和5年12月31日時点）の利用状況

自ら利用していた	82 人
利用していなかった（空き地）	30 人
別の人に貸していた	23 人
その他	7 人
無回答	2 人
調査未回答者	97 人

「自ら利用」を選んだ人の利用状況

- 建築物（住宅・店舗等） 52 人
- 駐車場 13 人
- 畑・菜園 1 人
- 物置（簡易な工作物）等 5 人
- その他 2 人
- 無回答 9 人

■現在の利用状況

自ら利用している	29 人
利用していない（空き地）	91 人
別の人に貸している	17 人
その他	4 人
無回答	3 人
調査未回答者	97 人

「自ら利用」を選んだ人の利用状況

- 駐車場 16 人
- 畑・菜園 1 人
- 物置（簡易な工作物）等 4 人
- その他 3 人
- 無回答 5 人

【2】今後の利活用の予定

売却先を募集または募集予定	38 人
現在と異なる利用方法を検討	33 人
現在の利用方法を継続	26 人
活用の仕方がわからない	22 人
特に考えていない	9 人
その他	14 人
無回答	2 人
調査未回答者	97 人

【3】 今後、空き地等を活用する際の課題

<複数回答可>

地盤への安全面の不安（液状化被害等）	61人
需要がない、わからない	45人
土地の形状（間口が狭い等）	33人
資金面の不安	27人
活用を考えていない	25人
活用方法のノウハウがない	23人
接道条件（前面道路が狭い等）	12人
法規制、権利上の問題	6人
特に課題はない	4人
その他	7人
無回答	14人
調査未回答者	97人

【4】 今後の所有の意向

有償で売却したい	63人
所有し続けたい	36人
無償でも良いので手放したい	25人
その他	14人
無回答	6人
調査未回答者	97人

【5】 復興まちづくりの取組みの一環として、空き地の暫定的な利活用への協力の可否について

検討する余地はある	36人
条件次第で貸してもよい	30人
行政が関与するなら貸してもよい	26人
貸したくない	17人
無償で貸してもよい	6人
その他	18人
無回答	11人
調査未回答者	97人

【6】 今後の伏木地区にあると望ましい機能

＜複数回答可＞

買い物施設・店舗の充実	77人
公共交通の充実	61人
高齢者への配慮	53人
観光促進	41人
防災性の向上	34人
地域コミュニティの維持、促進	29人
子育て環境の充実	25人
多様な土地利用等が可能な制度設計	17人
公共空間の快適性の向上	15人
公園等の自然環境の充実	15人
その他	7人
無回答	8人
調査未回答者	97人

【7】 元の住まいに戻る意向（地震発生後に住まいを転居している場合）

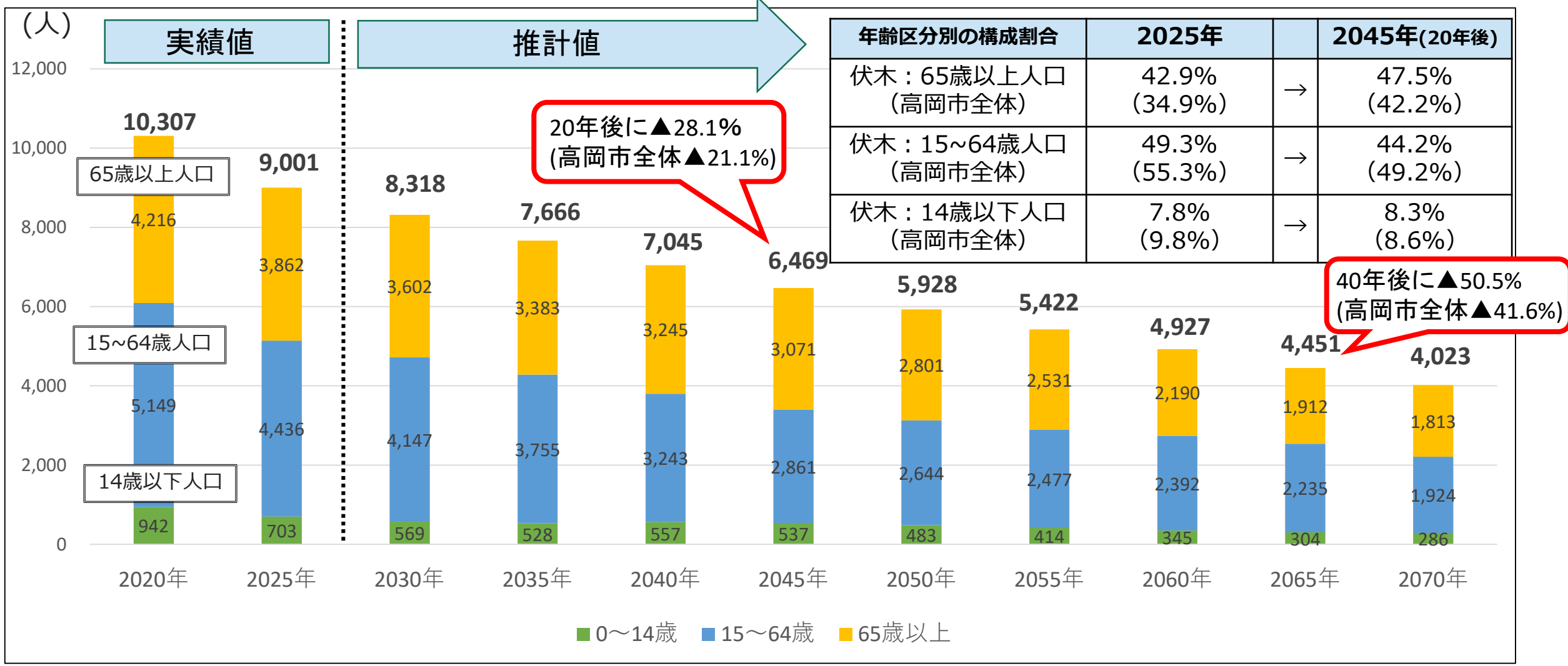
戻らない	39人
条件次第では戻る	4人
戻る予定である	2人
その他	6人
無回答（質問項目に該当しない等）	93人
調査未回答者	97人

＜参考：調査対象範囲＞



伏木地区の将来推計人口

伏木地区の人口は減少傾向にあり、20年後（2045年）には、現在の人口の約3割減、40年後（2065年）には、約5割減の水準になると推計される。
 ※本資料は、能登半島地震発生前の指標をもとに推計したものであり、地震の影響は加味されていない。



【出典】 2025年までの人口は高岡市の「地区別・年齢別人口」、
 2030年以降は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（令和5年推計）の算出方法をもとに市において推計

「新たな復興計画」の構成案（第2回会議の議題）

【構成案】

- 第1章 はじめに
…計画策定の目的、被害の概要、これまでの取組み
- 第2章 復興の基本理念・方針
…全市的な復興のあり方
- 第3章 伏木地区における復興の方向性
…現状と課題、復興のビジョン、進め方
- 第4章 重点プロジェクトと具体的施策
…重点プロジェクト、復興に向けた柱と具体的施策、評価指標
- 第5章 計画の推進に向けて
…推進体制の確立と役割分担、進行管理、国、県との連携

第2回復興会議での議題

全市的な復興のあり方（案）

本市では、能登半島地震の発災から約3ヵ月後の令和6年3月25日に「高岡市震災復興計画」を策定し、「一日も早い復旧・復興を推し進めるとともに、ハード（道路、上下水道等のインフラ整備）・ソフト（災害への備え、防災意識醸成等）の両面から、計画的に『強い高岡』を構築する」ことをビジョンに掲げ、令和8年度までの行動計画である「復旧・復興ロードマップ」に基づき、被災者支援策や復旧事業に取り組んでいる。

今後、令和8年度末における復旧・復興ロードマップの進捗状況を総括するとともに、地域の防災力を高めるための事業等については、令和8年度末までに策定する「新たな復興計画」に盛り込み、令和9年度以降においても継続的・計画的に取り組む。

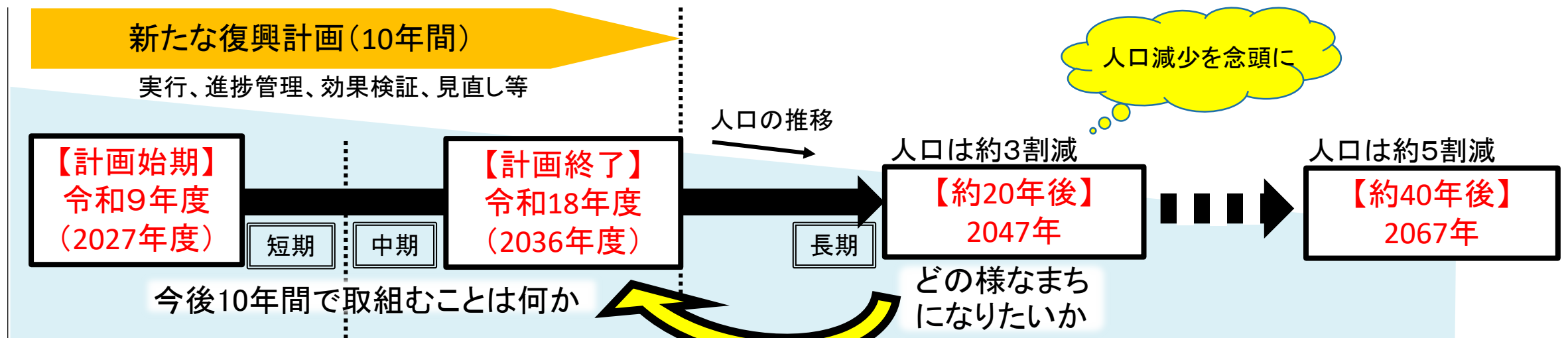
（主なもの）

- 公共施設と宅地の一体的な液状化対策
- 住宅耐震化支援
- 橋りょうや上下水道など公共インフラの耐震化、急傾斜地崩壊対策事業
- 自主防災組織の育成、支援、地域防災計画・業務継続計画、避難所運営・備蓄物資、応援協定等の適宜見直し
- 市民防災意識の向上のための啓発
- 地域コミュニティの維持・再生、住民が主体となるまちづくり活動への支援 など

めざすまちの姿（ビジョン）と具体的施策の位置づけ

今後の人口減少等を念頭に、20年先のまちの姿を描き、計画期間である10年間のうちに取組むこと等を考える（20年先のまちの姿から逆算して、計画期間に何をすべきかを検討）

- 「新たな復興計画」は10年間を期間とするものの、復興は長期に及ぶ取組みであるため、①短期（5年）、②中期（10年）、③長期（20年）に分けて計画を検討。
- めざすまちの姿（ビジョン）は、長期的な20年先の姿とする。
- 計画の具体的施策は、短期（5年間）と、中期（6年以上継続的に取り組むもの）に分けて整理。
- 進捗管理は毎年実施。必要に応じて見直しを行う。



1. 安全

- **地震の教訓を踏まえた、災害に強いまちづくりの実現**
(防災)
- **安心して暮らし続けることができる環境の整備**
(空き地・空き家対策、生活環境の保全、地域の安全・安心)

ビジョン＝復興によりめざすまちの姿を「文言＋イラストで表したもの」(イラスト化したものは第3回復興会議で提示予定)

2. 暮らし

- **暮らしを支える地域コミュニティの継続**
(心の豊かさ、幅広い世代が繋がる地域コミュニティ)
- **歴史、資源などまちの魅力・誇りを将来世代に継承できる人の繋がり**
(文化、歴史、景観の保全と担い手の確保)

3. にぎわい

- **復興を通じた交流人口、関係人口の創出**
(新たな人の流れ、まちのにぎわい)
- **地域を支えるなりわいの再建と創造**
(新たなチャレンジが生まれる環境づくり)

人口減少や少子高齢化等の震災前からの構造的な課題とも向き合いながら、伏木らしさを将来に繋ぎ、持続可能なまちをつくる

↳ 歴史、文化、人の繋がりにより形成されてきた伏木の魅力など

伏木地区の課題

【1】安全

No.	課題	補足
1	液状化	液状化防止対策
2	浸水被害	地盤が低い区域等では、豪雨により浸水被害が発生
3	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・津波リスク、避難行動、避難先の周知 ・ハザードマップの見方など、防災意識の向上 ・中長期的な視点での避難所の整備（学校の統廃合を踏まえて） ・防災教育、防災訓練 ・地区防災計画の作成 ・地域での取り組みについて、活動できる人材、知識が不足 ・避難行動要支援者名簿登録者の個別避難計画の作成 ・住宅の耐震化、空き家の改修など（既存の支援事業も含む。） ・インフラの耐震化、強靱化 等
4	防犯	空き地・空き家の増加、夜が暗くて怖いなど、住民が防犯面で不安を抱えている。

伏木地区の課題

【2】くらし

No.	課題	補足
5	コミュニティの維持・担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・転出、高齢化により、地域のコミュニティや自治会機能の維持が課題。 地域活動の担い手人材、組織など、地域を支える仕組みづくりが必要
6	人口流出	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題に直結する重要な課題 現在においても、住宅再建を検討する中で、地区外に人口が流出している可能性あり
7	住まいの環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 空き家・空き地が増えている中での住まいの環境整備、保全 コミュニティが継続できる環境づくり 地域外の人に移住しやすいような住まいの環境整備
8	地域の伝統・文化継承	曳山、地域の伝統行事など、若年層の活動参加や持続できる仕組みづくりが課題
9	空き家の管理・活用	<ul style="list-style-type: none"> 転出等により空き家が増加 空き家の管理、利活用が課題
10	空き地の管理・活用	<ul style="list-style-type: none"> 公費解体等によって空き地が面的に発生 空き地の適正な管理 空き地の活用策として、イベント開催、店舗設置、子どもの遊び場など、様々な活用が考えられる。

伏木地区の課題

【2】くらし

No.	課題	補足
11	集まる場所等、交流の場の減少	<ul style="list-style-type: none"> 多くの住宅や公民館、店舗等が被災したことにより、集まる場等、人との交流の場が減少 寄り合いの場、機会づくり
12	高齢者の孤立、健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 若年層が転出し、高齢者の孤立が懸念 心と体の健康
13	移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を送る上で必要な移動手段の確保が課題（今は大丈夫でも、今後の高齢化の進展により深刻な問題となる） 観光地、目的地を結ぶ移動手段の選択肢が不足 自動車移動に依存しており、雨晴周辺では渋滞が発生（伏木地区に移動させるような仕組みが必要）
14	買い物施設の不足	<p>地区内に買い物の場がない（今は大丈夫でも、今後の高齢化の進展により深刻な問題となる）</p> <p>※にぎわいの項目でも「店舗の減少」あり（類似の項目）</p>

伏木地区の課題

【3】にぎわい

No.	課題	補足
15	交流人口、関係人口の創出	<ul style="list-style-type: none"> • まちのにぎわい創出に向けて、交流人口、関係人口の創出が必要 • 伏木と繋がりのある人を増やす、呼び止める施策として、関係人口を増やすことができないか
16	観光の振興、歴史・文化資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> • 魅力ある歴史・文化資源を活用しきれていない（万葉文化、勝興寺、北前船の歴史など） • 地域外に向けての発信、来てもらえる仕組みづくりが弱い • 地域内の人にも、魅力に気付いてもらいたい • 郷土愛の醸成
17	勝興寺への参道（移動、空間デザインなど）	<ul style="list-style-type: none"> • 伏木駅から勝興寺までの坂道移動が大変 • 参道の空間デザインが必要（店舗、休憩スポット含めて、参道の魅力向上）
18	水辺空間の利活用	伏木港、万葉ふ頭、小矢部川等の水辺空間と緑地が、観光資源・住民の憩いの場等として活かしきれていない（県との連携も必要）

伏木地区の課題

【3】にぎわい

No.	課題	補足
19	クルーズ船の活用	クルーズ船の乗客が伏木に寄ってくれず、経済効果を活かしきれていない
20	店舗の減少	飲食、小売などの店舗が少なく、まちのにぎわいに繋がらない ※くらしの項目でも「買い物施設の不足」あり (類似の項目)
21	地域イメージ等の低下、 復興のモデル地区としての 魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> 地震被害による地域イメージの低下 (伏木駅前：地価の下落率県内1位) 復興のモデル地区となるような取組みができないか 伏木の外に住んでいる人に、復旧・復興に向けた話題が届くような情報発信が必要
22	未利用の公用財産の利活用	統合予定の学校等の、建物・跡地利用

将来的なまちづくりの方向性について（検討）

土地の特性やまちのつくりを踏まえた、エリアごとのまちづくりの方向性について検討が必要。

【生活機能を集約・コンパクトなまちづくり】

- 人口減少や高齢化社会を踏まえ、住居や生活に必要な施設を、駅やまちの中心エリアに集約。
- 高齢者をはじめ、誰もが安心して暮らせるコンパクトなまちをつくる。

駅や主要道路との近さ
浸水リスク 等



【短冊状の敷地を整形】

- まちなみを保全しつつ、短冊状の敷地を整形。

敷地を整形

【狭あい道路整備・宅地の嵩上げ】

- 宅地の後退(セットバック)により狭あいな道路を拡幅。宅地の嵩上げにより浸水リスクを低減

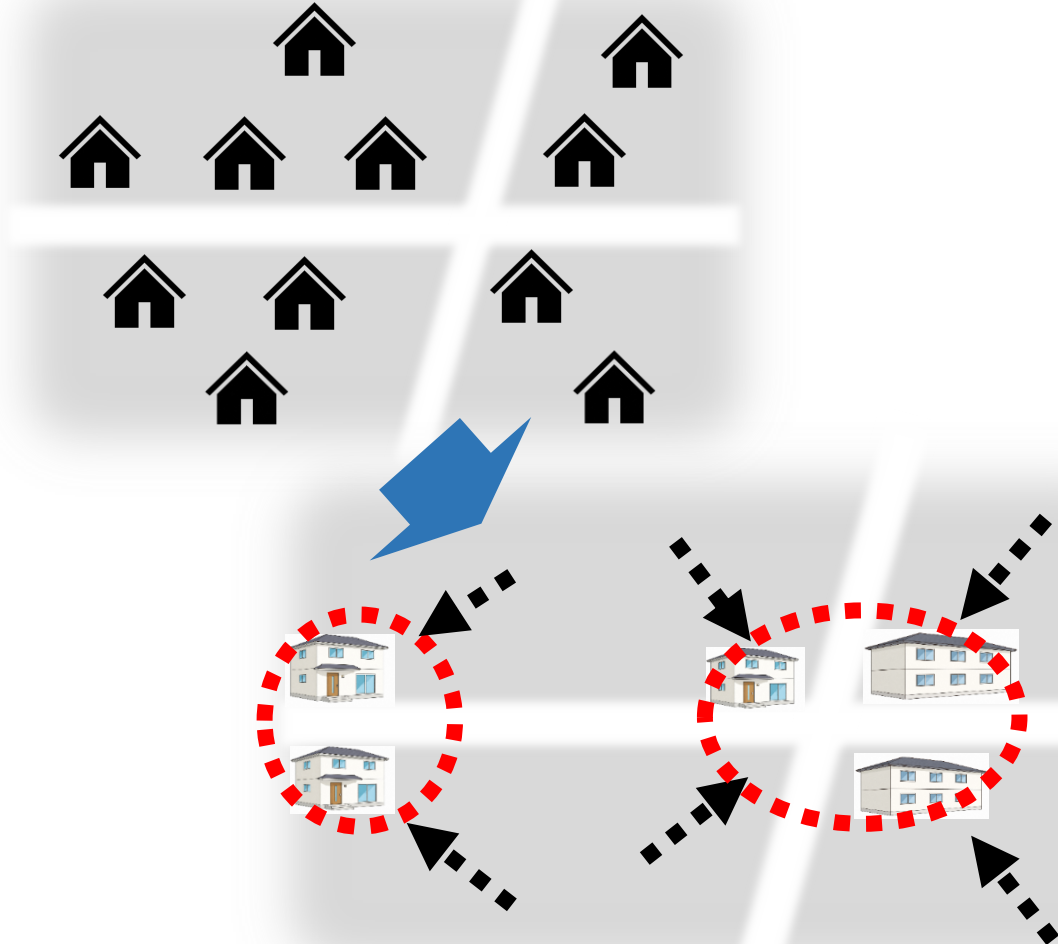
【空き地を活用し、緑や憩いの空間を配置】

- 将来的な居住利用が難しい空き地は、緑地や憩いの場、防災空間等として活用。地震により発生した空き地を、防災・環境・交流など役割のある空間として生かす。

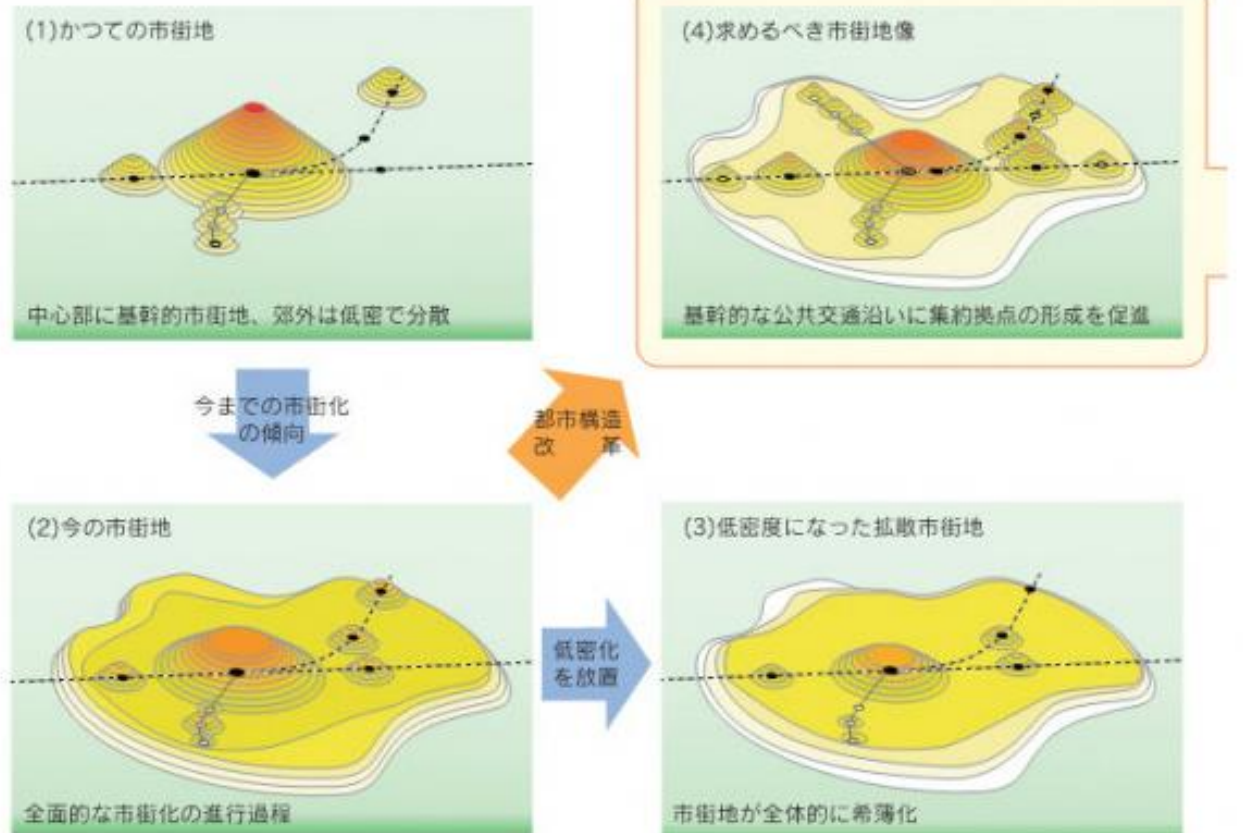
【パターン1】生活機能を集約し、コンパクトなまちをつくる

【人口減少、高齢化を見据えたまちづくり】

- 人口減少や高齢化社会を踏まえ、住居や生活に必要な施設を、駅やまちの中心となるエリアに集約。拠点となるエリアに生活機能を確認し、高齢者をはじめ、誰もが安心して暮らせるコンパクトなまちをつくる。
- 住居が集まることで、夜間も人の気配や明かりが保たれ、防犯面でも効果が期待できる。



【参考】拡散型から集約型都市構造への再編イメージ (出典：国土交通省)

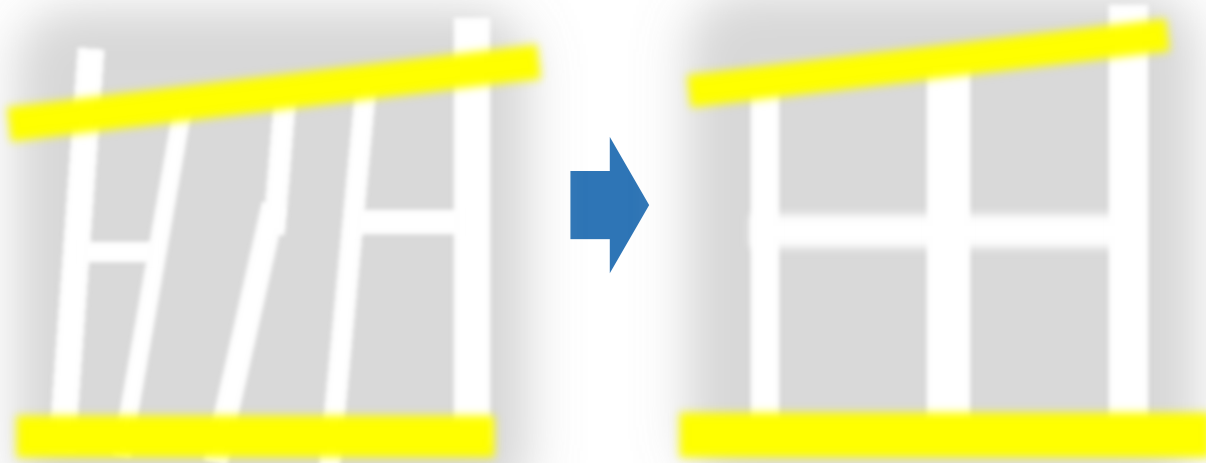


- | | | |
|----|-----|--|
| 効果 | 安全 | 地震の教訓を踏まえた災害に強いまちづくり、安心して暮らし続けることができる環境の整備 |
| | 暮らし | 暮らしを支える地域コミュニティの継続 |

【パターン2】 まちなみを守りつつ、快適な住環境をつくる

【短冊状の敷地を整形】

- 伏木のまちなみや家の連なりなどのまちの面影を大切に守りながら、街区の範囲内で敷地の形状を見直し、住環境の改善を図る。
- まちの姿を大きく変えず、「住み慣れた場所に、安心して住み続けられる」ことを重視する。
- 段階的な整備が可能



効果

安全

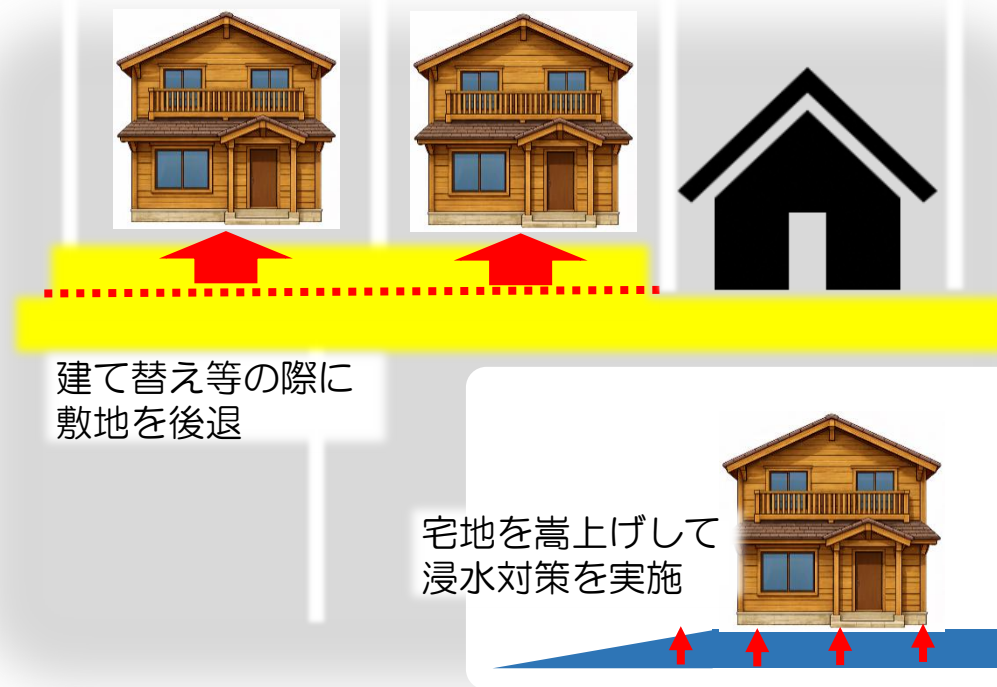
安心して暮らし続けることができる環境の整備

暮らし

暮らしを支える地域コミュニティの継続

【宅地再建等の際に敷地を後退・宅地を嵩上げ】

- 大規模な道路拡幅ではなく、宅地の再建や建て替えの際に、敷地を後退（セットバック）させて建築を行うことで、長期的に、少しずつ道幅を確保していく。
- 宅地を嵩上げて浸水リスクを軽減させる。
- 将来的には、防災や通行の安全性、救急活動の円滑化等に繋がる道路環境、住環境の改善に繋げる。



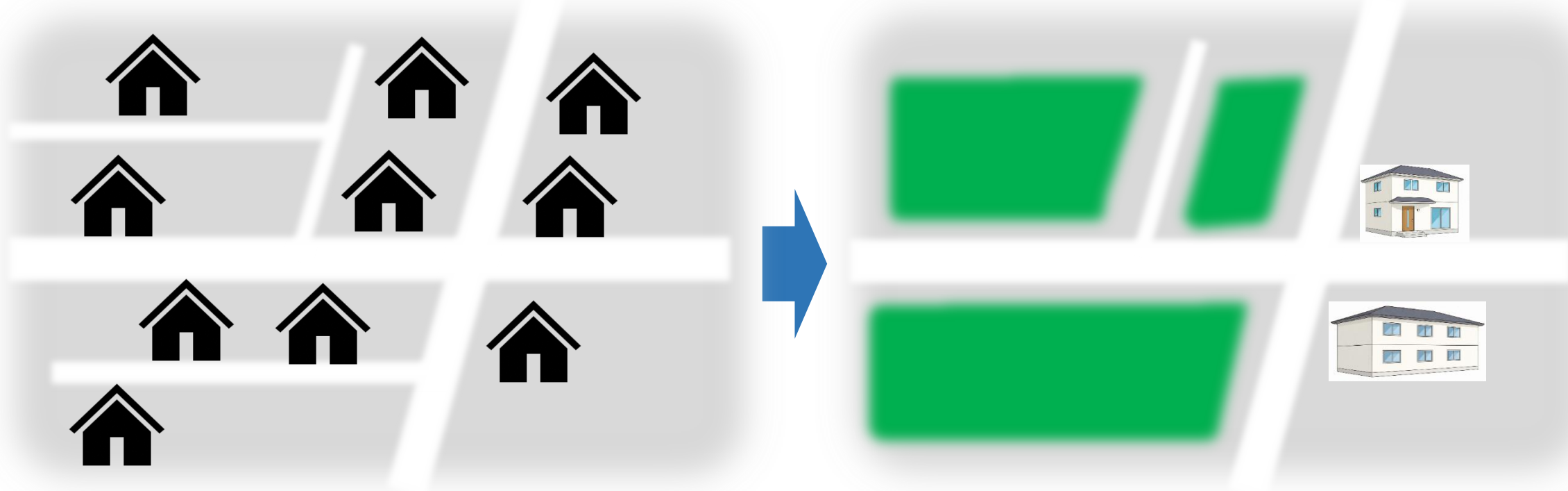
にぎわい

地域を支えるなりわいの再建と創造

【パターン3】 緑や憩いの空間を配置し、安全なまちをつくる

空き地の役割を見直し・まちの安全性向上

- ・ 浸水リスクの高いエリアや、将来的な居住利用が難しい空き地については、緑地や憩いの場、防災空間等として活用する。
- ・ 地震により発生した空き地を、防災・環境・交流などの役割のある空間として捉え、空き地を活かした、一定の開放感あるまちをつくる。
- ・ すべての土地を元どおりに戻すことを目的とせず、災害リスクと向き合いながら、まちの安全性を高める。



効果

- 安全
- にぎわい

地震の教訓を踏まえた災害に強いまちづくり
復興を通じた交流人口、関係人口の創出









内水浸水想定区域図 想定最大規模

約 1000 年
に一度の大雨





伏木・古府・太田地区

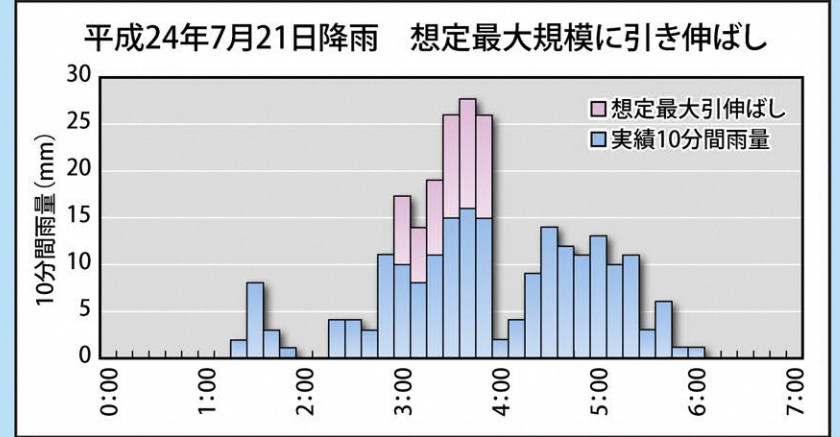
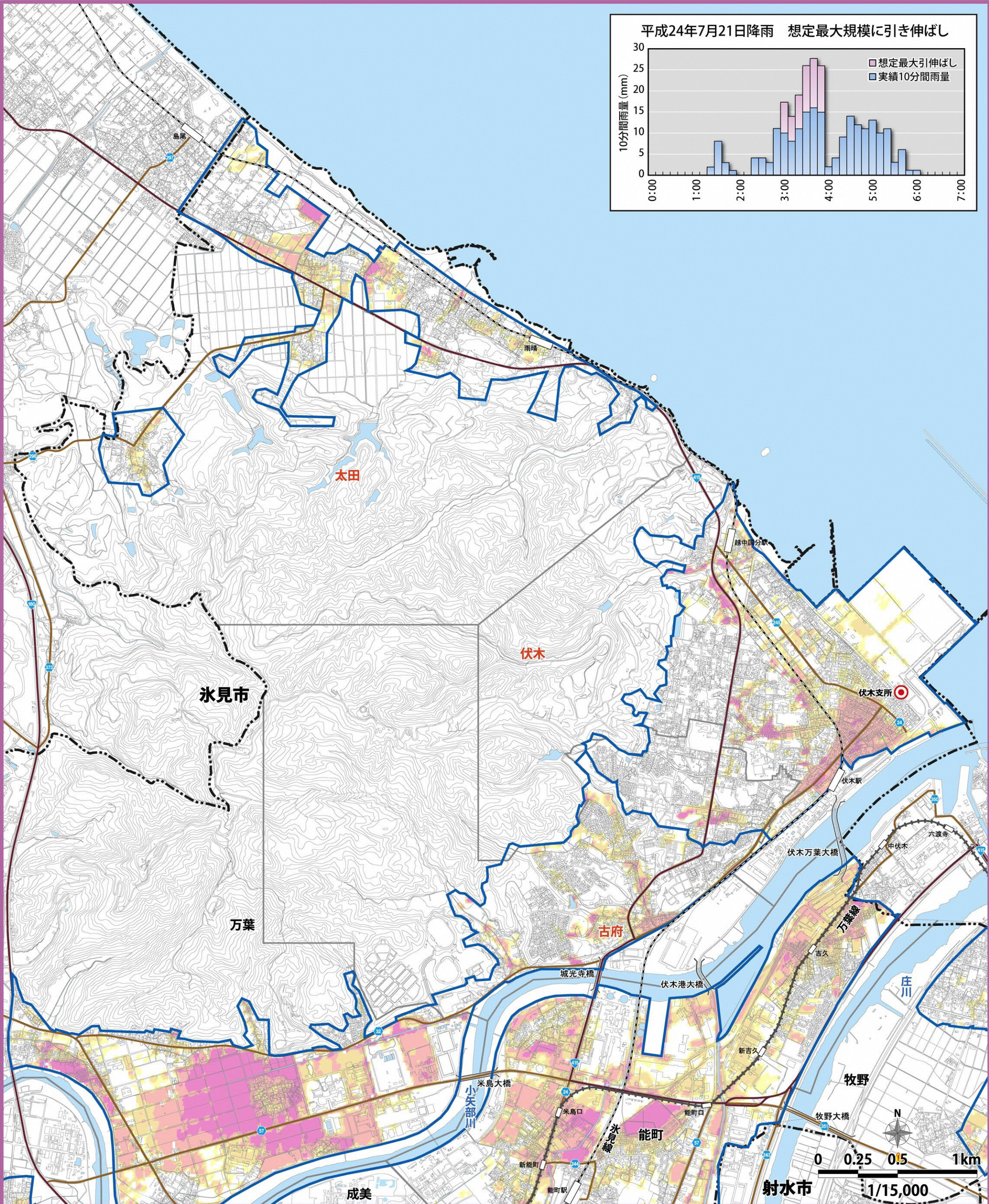
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。
(測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R3JHs 416)
内水浸水想定は、高岡市内のうち、内水浸水リスクが高い下水道計画区域(雨水)を対象とした。

凡例

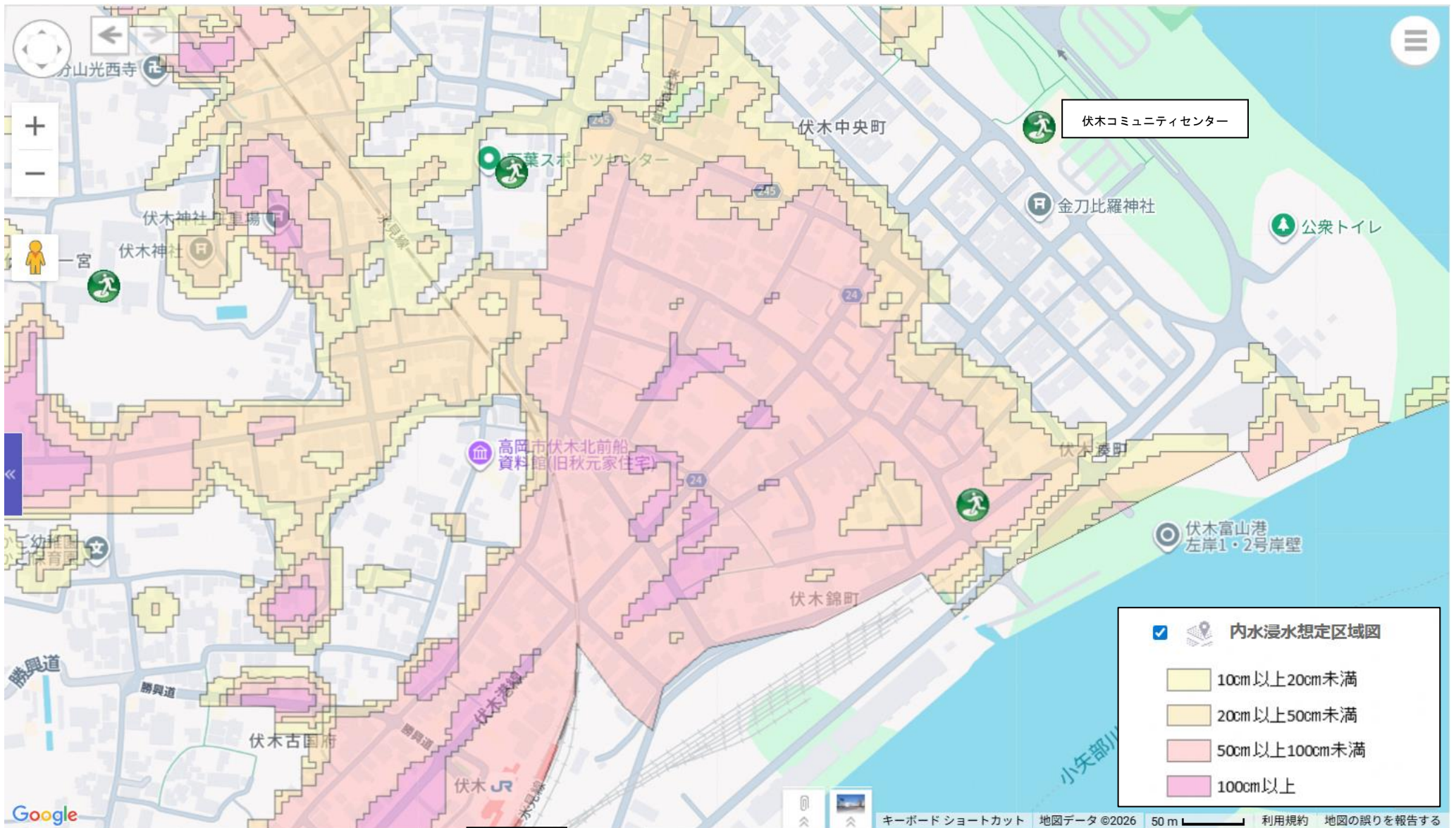
-  市役所・庁舎
-  地下道(アンダーパス)
-  国道
-  県道
-  鉄道・軌道
-  市界
-  小学校区
-  下水道計画区域(雨水)

内水浸水の深さ

-  1.0m以上
-  0.5m以上～1.0m未満
-  0.2m以上～0.5m未満
-  0.1m以上～0.2m未満



内水想定浸水区域図（伏木地区拡大版）



JR 伏木駅

水害ハザードマップ

高岡市 伏木・古府・太田地区

このマップは、国土交通省富山県河川部伊勢川及び庄川水系の洪水浸水想定区域図に基づき、全ての河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域と、その浸水の最大値を表示しています。また、下水道（雨水管）から水が溢れだした際に浸水が想定される区域と、その浸水の最大値も表示しています。なお、マップに示した浸水区域以外にも、河川の氾濫などによって浸水することもありますので、ご注意ください。

令和4年4月作成
【対象河川】
小矢野川水系 小矢野川、神津川、子加川、横江川、千保川、野上川
庄川水系 庄川、野上川
水害ハザードマップに関するお問い合わせ
富山県河川部河川課 Tel:0766-20-1229
高岡市危機管理課 Tel:0766-30-7288
上水局下水道工務課 Tel:0766-20-1742

地域割り

凡例

- 高岡市内の指定緊急避難場所(洪水)
- 他市の指定緊急避難場所(洪水)
- 市役所・庁舎
- 水位観測所
- 河川監視カメラ
- 地下道(アンダーパス)
- 国道
- 鉄道・幹道
- 市界
- 小学校区
- 下水道計画区域(雨水)

洪水浸水ランクによる色分け

- 3.0m以上
- 3.0m以上～5.0m未満(2階浸水)
- 0.5m以上～3.0m未満(1階浸水)
- 0.5m未満(1階以下浸水)

浸水浸水の浸さ

- 5.0m以上
- 3.0m以上～5.0m未満
- 0.5m以上～3.0m未満
- 0.5m未満

土砂災害

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

準常時浸水想定区域

洪水によって、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい氾濫流や河岸侵食の発生が想定される区域です。早めにその区域から離れ、安全な場所へ避難する必要があります。

- 氾濫流による区域
- 河岸侵食による区域



過去の災害

平成24年7月21日の暴雨では、本市において早朝に最大時雨量67mmの激しい雨が降り、浸水面積428.3ha、床上浸水179件、床下浸水348件の浸水被害が発生しました。

高岡市ハザードマップ
ハザードマップ、内水浸水の詳細は市のホームページでも確認できます。

全域版 浸水想定区域図 想定最大規模 約1000年に一度の大雨 ※洪水浸水のみ

この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用し、(測量法に基づく)国土地理院長承認(使用)R3JHs416(内水浸水想定は、高岡市内のうち、内水浸水リスクが高い下水道計画区(雨水)を対象とした。

【警戒レベル3】や【警戒レベル4】で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・被害に避難しましょう。

警戒レベル	皆さんがとるべき行動	避難情報など
警戒レベル5	すでに危険が発生、または切迫した状況です。身の危険があるため、たちちに身の安全を確保しましょう。	緊急安全確保
警戒レベル4	浸水が浸水想定区域に達するおそれがあるため、避難行動を促すため、避難場所へ避難しましょう。	避難指示
警戒レベル3	浸水が浸水想定区域に達するおそれがあるため、避難行動を促すため、避難場所へ避難しましょう。	高砂警等避難
警戒レベル2	浸水が浸水想定区域に達するおそれがあるため、避難行動を促すため、避難場所へ避難しましょう。	浸水注意報
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報

降雨実績

【浸水想定区域図】とは？
● 1: 浸水想定区域(約1000年に一度の大雨)
● 2: 浸水想定区域(約100年に一度の大雨)

河川	観測地点	観測時刻	観測雨量	浸水想定区域
小矢野川	12時観測雨量	415.0mm	浸水想定区域	
	12時観測雨量	345.0mm	浸水想定区域	
庄川	4時観測雨量	833.0mm	浸水想定区域	
	12時観測雨量	817.3mm	浸水想定区域	
神津川	24時観測雨量	873.0mm	浸水想定区域	
	24時観測雨量	774.0mm	浸水想定区域	
横江川	24時観測雨量	813.0mm	浸水想定区域	
	24時観測雨量	704.0mm	浸水想定区域	
千保川	24時観測雨量	813.0mm	浸水想定区域	
	24時観測雨量	774.0mm	浸水想定区域	
高岡市	庄川	1時観測雨量	133.0mm	



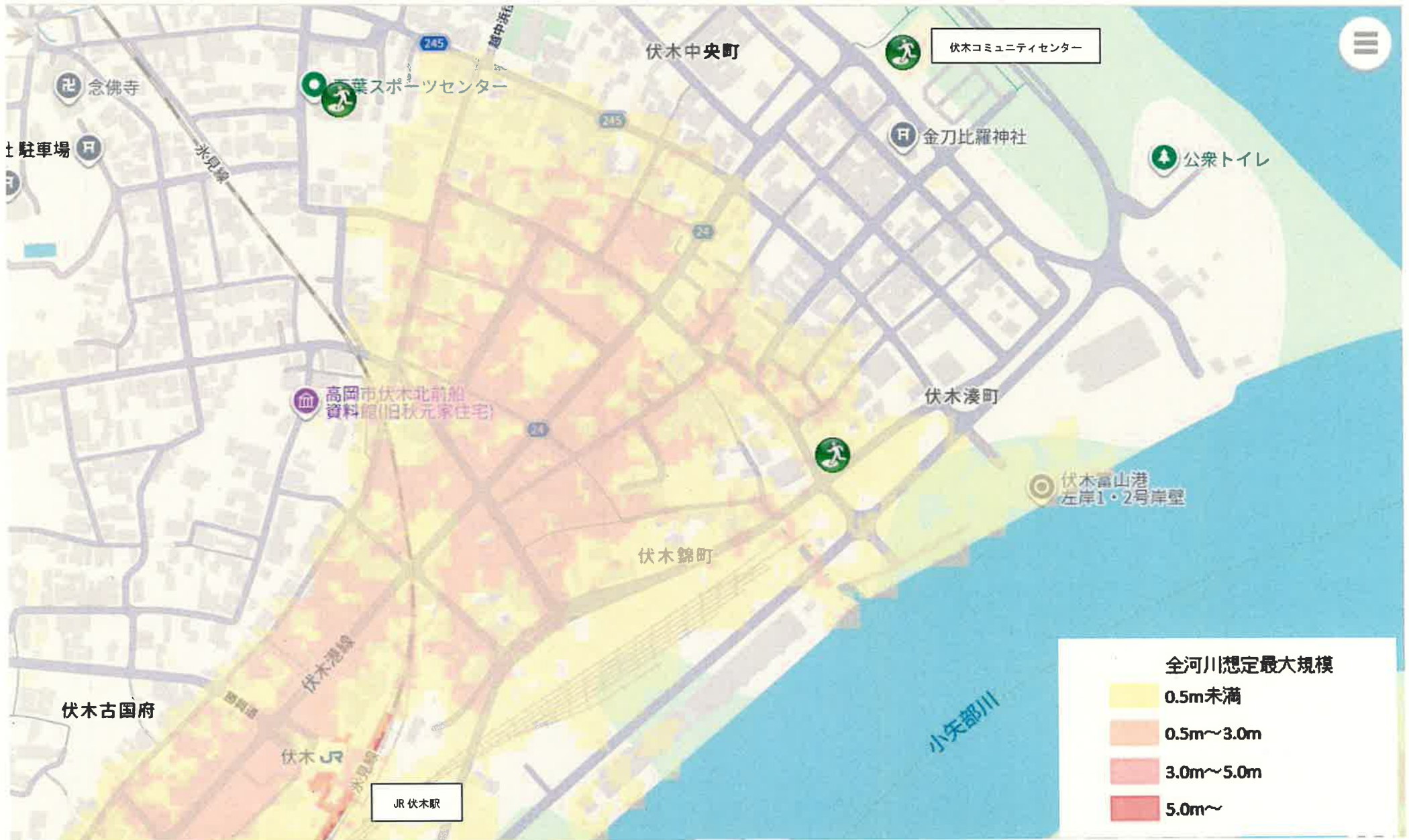
地域版 浸水想定区域図 想定最大規模 約1000年に一度の大雨 ※洪水浸水と内水浸水の重ね合わせ



指定緊急避難場所(洪水)一覧

名称	住所	避難番号	対応可能人数
伏木小学校	伏木一勇17-1	44-0248	1階以上
伏木南校	伏木一勇2-11-1	44-0366	1階以上
伏木コミュニティセンター	伏木南町13-1	44-0481	1階以上
伏木公民館	伏木南町17-6	44-0323	1階以上
万歳スポーツセンター	伏木南町1-24	44-7236	1階以上
伏木南町公民館	伏木南町5-15	44-0277	1階以上
古府小学校	伏木南町4-1	44-0226	1階以上
古府中学校	伏木南町3-1-1	44-0454	1階以上
古府公民館	伏木南町109-20	44-6777	1階以上
太田小学校	太田4619	44-0405	1階以上
太田公民館	太田5362-2	44-0404	1階以上

洪水浸水想定区域図



高岡市津波ハザードマップ 伏木地区

この高岡市津波ハザードマップは、富山県が平成28年度に行った津波浸水想定調査結果を用いて作成しました。最大クラスの津波を想定した浸水範囲、最大浸水深、浸水開始時間に加え、津波発生時に利用できる避難場所などの情報をまとめています。津波による浸水想定は以下の条件を想定しています。

- 津波を防ぐ海岸堤や堤防が機能しない場合
- 満潮時の平均的な潮位の場合

地震の発生状況によっては、地図に示した範囲や深さを超える可能性があります。

近くの避難場所を知っておこう！

津波避難ビル

津波が押し寄せた際、高台に逃げることが難しい場合や避難が遅れたときなど一時的に避難する場所です。大津波警報や津波警報解除後は指定避難所へ移動してください。

建物名	避難できる階
伏木港湾合同庁舎	正面入口から2～5階(道路)・屋上へ
伏木消防署	外階段(奥側)から2階講堂へ
特別養護老人ホームふしき苑	正面入口から2～3階(共用室・ベランダ)・屋上へ
ケアハウス伏木万葉の里	外階段から2～5階(ベランダ・廊下)へ
山久ハイツ	正面入口から2～6階通路へ
伏木コミュニティセンター	各入口(4カ所)から3階(多目的ホール)・屋上へ

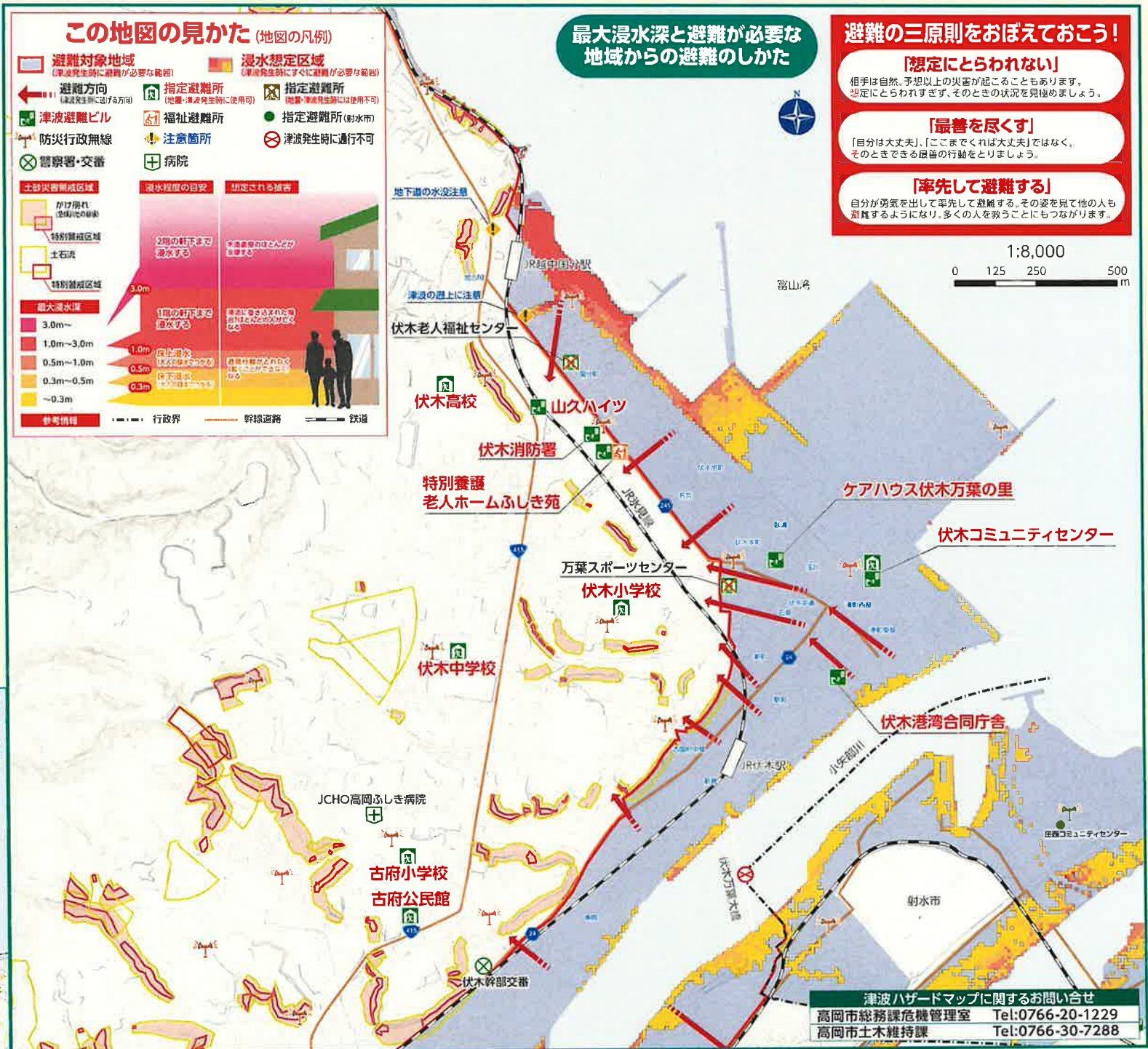
津波の時に使用できる指定避難所

津波に対して安全で耐震化されており、避難が長時間になる場合や宿泊が必要な時のための避難所です。

避難所名	避難できる階	電話番号
伏木小学校	1～3階・グラウンド	44-0248
伏木高校	1～4階・グラウンド	44-0366
伏木コミュニティセンター	1～3階	44-0481
伏木中学校	1～3階・グラウンド	44-0454

福祉避難所

高齢者・障がい者などのうち学校などの指定避難所における避難生活が困難な方々を対象とし、災害時に指定避難所の避難状況により設置を判断する二次的な避難所です。

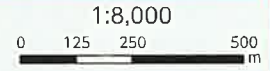


避難の三原則をおぼえておこう！

「想定にとられない」
相手が自然、予想以上の災害が起こることもあります。想定にとられすぎず、そのときの状況を見極めましょう。

「最善を尽くす」
「自分は大丈夫」、「こまでくれば大丈夫」ではなく、そのときできる最善の行動をとります。

「率先して避難する」
自分が勇気を出して率先して避難する。その姿を見て他の人も避難するようになり、多くの人を救うことにもつながります。



マップ上の浸水想定区域(浸水想定区域)は、国土地理院が作成しています。津波ハザードマップは、国土交通省が作成しています。高岡市は、国土交通省が作成した津波ハザードマップを基に、高岡市独自の浸水想定区域を設定しています。高岡市は、国土交通省が作成した津波ハザードマップを基に、高岡市独自の浸水想定区域を設定しています。平成30年3月作成

高岡市土砂災害ハザードマップ No. 2 (伏木地区)

令和3年8月



土砂災害防止法とは

土砂災害(がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)、土石流、地すべり)から住民の生命を守るために、土砂災害が発生するおそれがある区域を明らかにし、警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行うもので、平成13年4月に施行されました。

土砂災害警戒区域 (土砂災害のおそれがある区域)

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

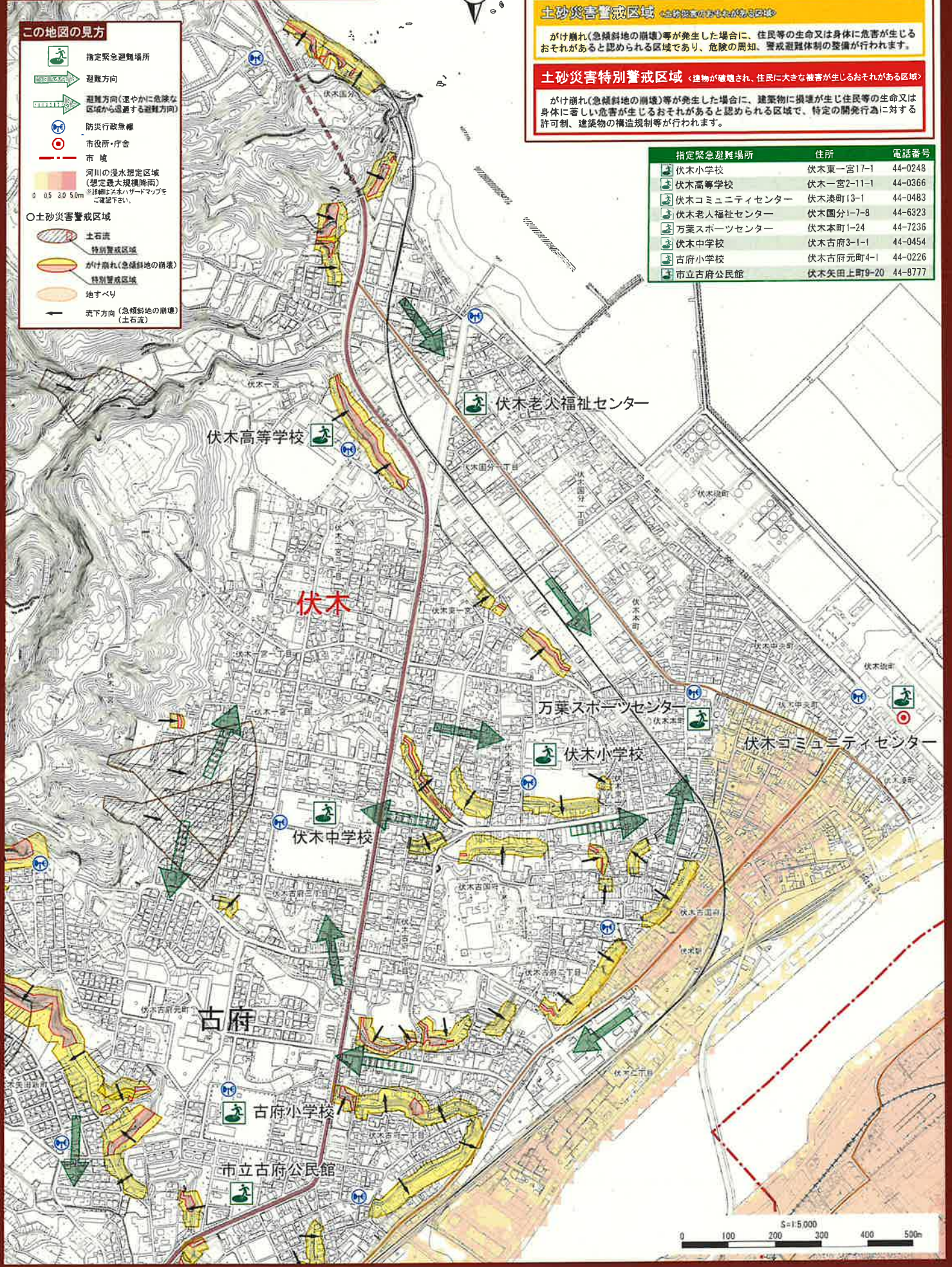
土砂災害特別警戒区域 (建物が破壊され、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域)

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

この地図の見方

- 指定緊急避難場所
- 避難方向
- 避難方向(速やかに危険な区域から退避する避難方向)
- 防災行政無線
- 市役所・庁舎
- 市境
- 河川の浸水想定区域(想定最大規模降雨)
※詳細は土砂災害ハザードマップをご覧ください。
- 0 0.5 3.0 5.0m
- 土砂災害警戒区域**
 - 土石流
 - 特別警戒区域
 - がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)
 - 特別警戒区域
 - 地すべり
 - 流下方向(急傾斜地の崩壊)
 - 流下方向(土石流)

指定緊急避難場所	住所	電話番号
	伏木東一宮17-1	44-0248
	伏木一宮2-11-1	44-0366
	伏木湊町13-1	44-0483
	伏木国分1-7-8	44-6323
	伏木本町1-24	44-7236
	伏木古府3-1-1	44-0454
	伏木古府元町4-1	44-0226
	伏木矢田上町9-20	44-8777



伏木のまちの広がり と 地域 の 特性 (1/4)

- 伏木地区の液状化被害の大きかったエリアの大部分は、江戸時代初期に小矢部川の河道（又は海）であった。
- 江戸時代後期に伏木地区の河道（又は海）の大部分が埋め立てられ、宅地化されたと考えられる。



図207 天正初期（400～420年前）の推定水際線
（下図はいずれも明治43年陸地測量部地図）



図208 江戸時代初期（350年前）の推定水際線

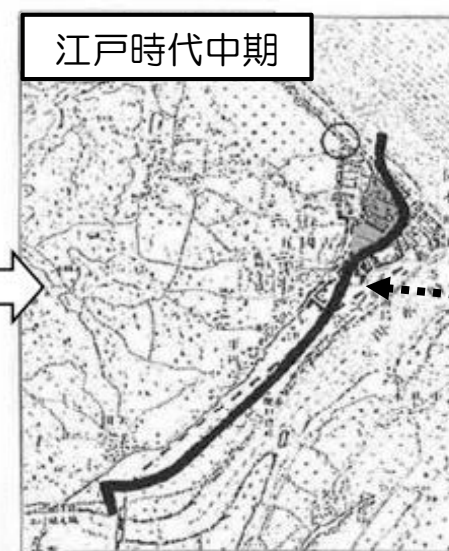


図209 江戸時代中期（280～300年前）の推定水際線

太線・・・推定水際線
（下図はいずれも明治43年陸地測量部地図）

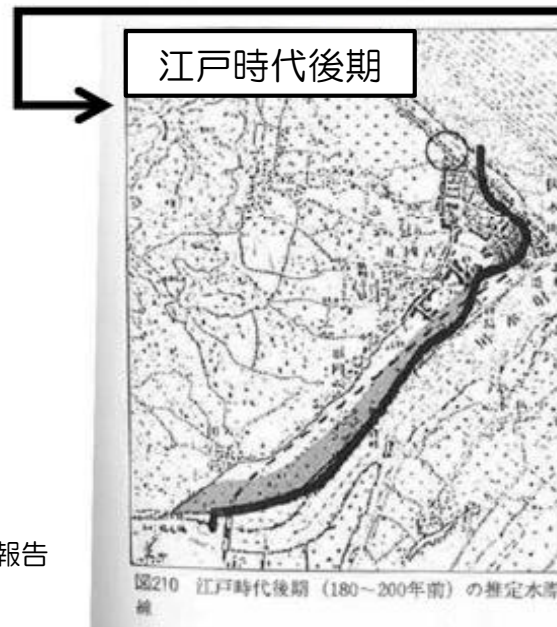


図210 江戸時代後期（180～200年前）の推定水際線

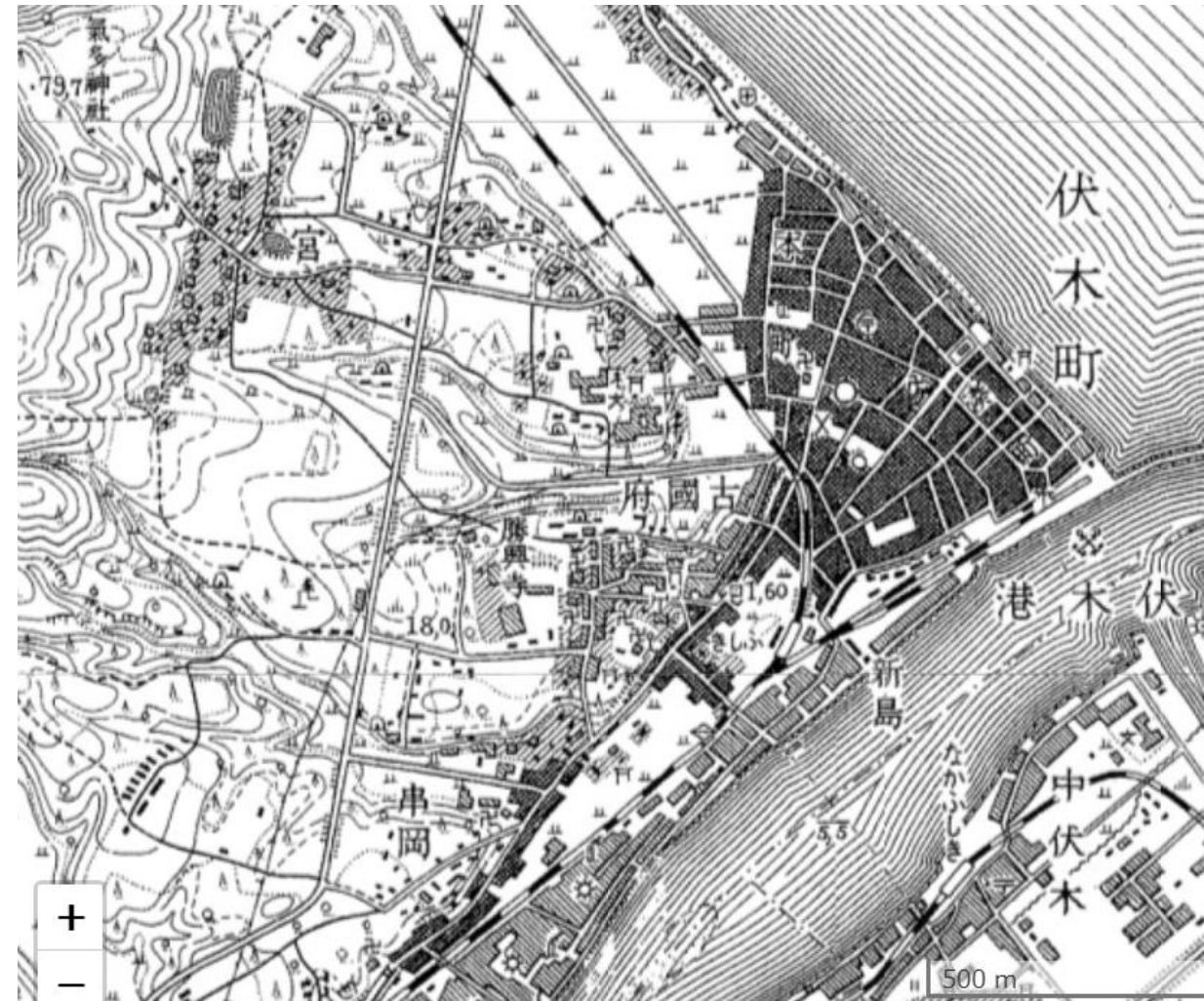


図211 明治初期（180～200年前）の推定水際線

伏木のまちの広がり と 地域 の 特性 (2/4)

1909年~1910年

1930年



網掛け部分は市街地。すでに住宅、店舗等が形成されている。

【出典】時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」

伏木のまちの広がり と 地域 の 特性 (3/4)

1960年頃

まち全体に住宅・店舗が立ち並んでいる。



1974年



本町通りは、最も早くからまち並みが形成された場所で、かつては廻船問屋の邸宅が多くあったところ。町屋が密集し、明治期から大正期に建てられたとされる建物を多く見ることができる。歴史を感じさせる柵形の道路が特徴的。

中道通りや湊町本通りは、明治期以降の港の近代化と発展の中で、まちが拡大していったと考えられるエリア。国外の文化が流入して生み出されたと思われる建物が見られる。

旧伏木銀行のあった湊町は、明治時代のビジネス街であり、昭和初期には6行もの金融機関が存在していた。運送会社等の支店が立ち並び、資金需要も旺盛であった。

伏木のまちの広がり と 地域 の 特性 (4/4)

2021年

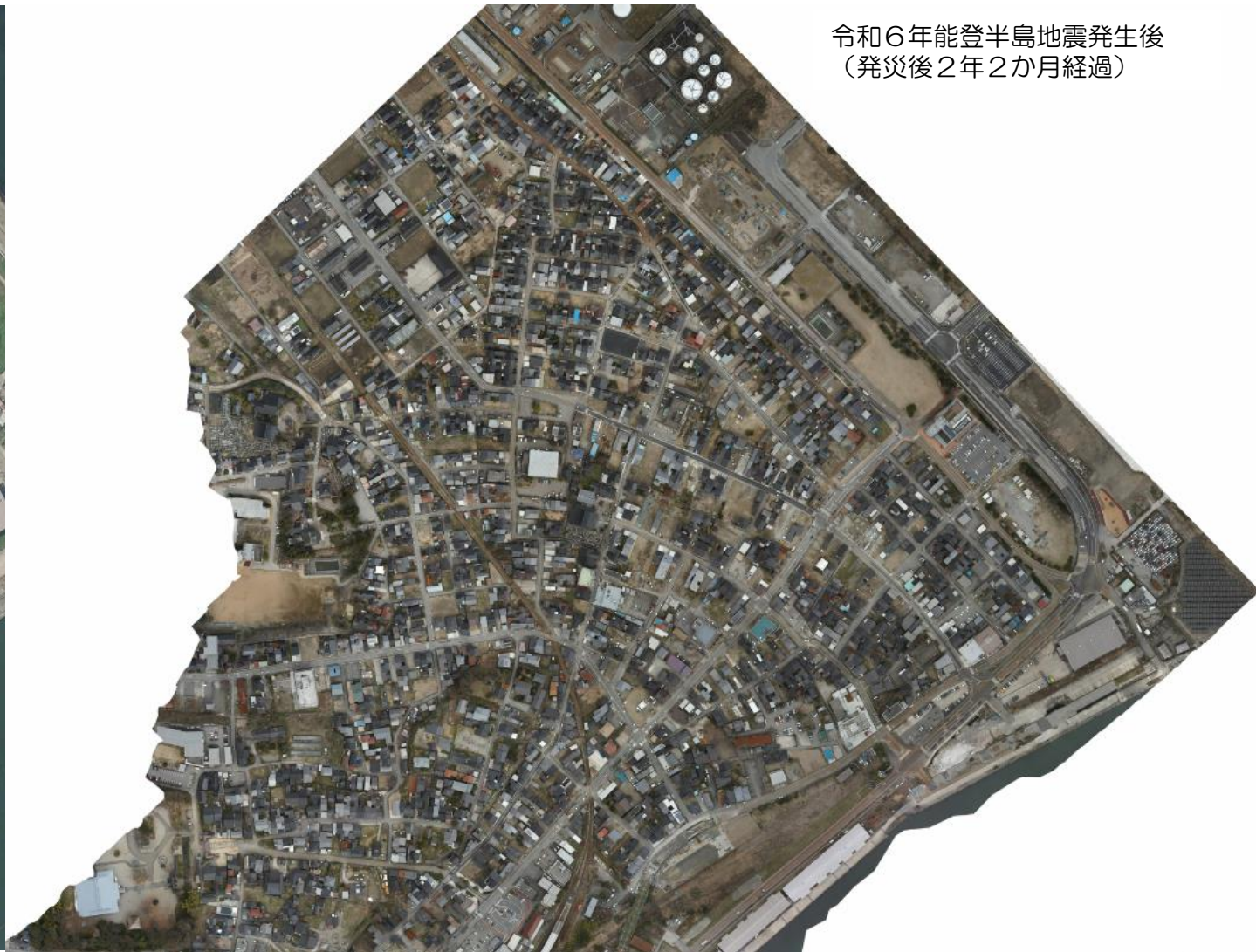
令和6年能登半島地震発生前



【出典】地理院地図

2026年3月

令和6年能登半島地震発生後
(発災後2年2か月経過)



【高岡市撮影】空中写真

伏木地区における復興まちづくりの取組み

伏木地区における復興まちづくり活動として、東京科学大学（真野研究室）、富山大学（藪谷研究室）が中心となり、伏木地区の住民と一緒に「伏木のミライを考えるまちづくり懇談会」を開催。

【基本方針】

○住民主体によるまちづくり

地域住民の皆さんがまちの魅力を再認識し、自らの手でまちづくり取組むことが、まちの魅力向上、にぎわい創出に繋がる。

【令和7年度の目標】

○復興まちづくり構想の策定

方針やビジョンを共有するため、既存の地元組織を母体にまちづくりに取組むための体制を整え、9自治会を対象エリアとした「まちづくり構想」の策定を目指す。



第4回懇談会の様子

【令和7年度 まちづくり懇談会の活動】

第1回

R7.7~8月
実施

伏木のまちを見つめなおしてみよう

住民の方々と、被害の状況や伏木地区の魅力について共有し、「伏木をどうしていきたいか」という将来像を話し合い。

第2回

R7.11月
実施

伏木のまちでやってみたいこと、できそうなことを話し合おう

第1回懇談会で出た意見をもとに伏木のまちで取り組めそうなテーマを設定。参加者同士で、具体的に行ってみたい活動を話し合い。

第3回

R7.12月
実施

興味のあるテーマに分かれてやりたい活動と将来像を考えよう

交流の場、歴史・祭り、空き地の活用など、テーマを6つに絞り込み、実現できそうな取り組みを話し合い。

第4回

R8.2月
実施

まちづくり構想案について話し合おう

これまでの意見を踏まえた「まちづくり構想案」をもとに意見交換。4つの方針を立て、最終的な取りまとめに移行。

伏木地区における復興まちづくりの取組み（令和7年度の活動内容）

【第1回懇談会(R7.7~8月開催)】

液状化被害の大きかった9自治会を中心に、6回に分けて懇談会を実施。合計87名の方が参加し、伏木地区の将来像について話し合いを行った。

開催日	参加自治会	参加人数
7月23日(木)	玉川自治会	18名
7月28日(月)	湊町自治会	16名
8月4日(月)	駅前自治会 古国府中部自治会 新島自治会	14名
8月8日(金)	石坂自治会 新町自治会	12名
8月9日(土)	中道自治会 臥浦自治会	13名
	全自治会	14名
		合計87名

懇談会では、多くのまちの課題を共有するとともに、地域の資源を活用したまちづくりのアイデアもたくさん出た。これらのアイデアをもとに、第2回懇談会に向けて「伏木の今と未来創造マップ（右上のイラスト）」を作成。

【第2回懇談会(R7.11月開催)】

開催日：11月5日(水)、
8日(土)、9日(日)

「伏木の今と未来創造マップ」をもとに、伏木のまちで実施したいことをワークショップ形式で話し合った。

伏木の今と未来創造マップ▶



（参加者から多く聞かれた意見）

- 人が集える場所が必要。一人暮らしの高齢者が増えており、近くに集いの場があるとよい。
- 空き地の活用策として、マルシェ開催、集合店舗、宿泊場所、子供の遊び場など、様々な活用が考えられる。
- 日常生活でも観光面でも、移動手段が課題。
- 伏木には歴史と文化が豊富にある。万葉の里、勝興寺、曳山など外部には勿論、伏木の人にも知ってほしい。
- 将来的な伏木小学校の跡地・建物の活用が重要。
- クルーズ船乗客が伏木に来てくれる仕組みづくりが必要。



- 伏木の外に住んでいる人に、復旧・復興に向けた話題が届くよう情報発信を積極的に。など

伏木地区における復興まちづくりの取組み（令和7年度の活動内容）

【第3回懇談会(R7.12月開催)】

第2回懇談会までの意見を踏まえて、テーマを6つに絞り込み。参加者ごとに興味のあるテーマに分かれて、今後伏木のまちで実現したい具体的な取組みについて意見交換を行った。

《6つのテーマ》

交流の場



歴史・祭り



空き地の活用



お店と暮らし



情報発信・共有



観光とまち



開催日：12月13日(土)

【第4回懇談会(R8.2月開催)】

開催日：2月7日(土)

これまでの懇談会の意見を踏まえて、「まちづくり構想」のたたき案を作成し、参加者と意見交換を実施。



（構想のたたき案に対する主な意見）

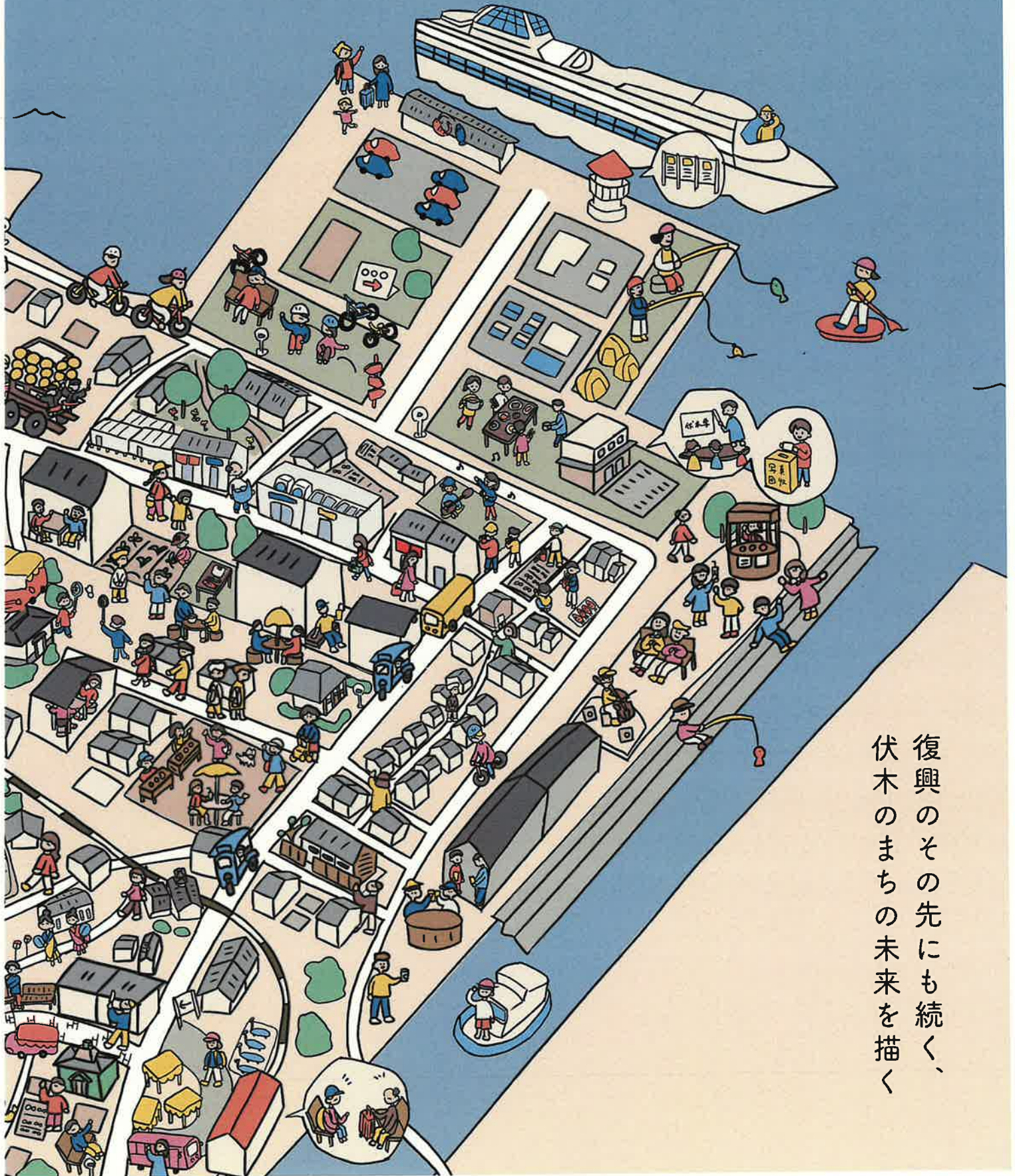
- 自分たちで持続できそうな取組みに内容をまとめられているところが良い。
- 自分たちの復興に対する思いを共有でき、形の残せるところがよい。
- 伏木の「文化を誇る」ことについて、どの世代にもそう感じてもらえるように取組んでいく必要がある。
- 被災地だけでなく、伏木全体にまちづくりの活動を広げられる内容になれば良い。情報発信、PRが大事。
- 具体的な実施時期を設定すべき（何年計画、だれが主体的に行うか）
- 取り掛かりやすい事業をまずは実施し、協力してくれる地元の人を増やしていきたい。

⇒参加者の意見を踏まえて、最終的に「まちづくり構想」を策定。次年度以降、構想に記載した具体的な取組みを実行に移していく。



文化を育み、生きる伏木

伏木のまち未来ブック 2026



復興のその先にも続く、
伏木のまちの未来を描く

ごあいさつ

復興のその先を見据えた、 次世代に誇れるまちづくりを目指して

令和6年元日に起きた震度5強の地震と大津波警報で、伏木地区の多くの住民は伏木小学校等の高台に避難し、避難所で一夜を明かしました。翌朝、自宅に戻って伏木のまちなかの被害の凄さにびっくりしました。

道路は隆起・陥没し液状化で砂泥が溢れ、電柱は沈下し、家は今にも倒れそうに傾き、上下水道も使えない等、大変な状況でありました。その後、国・県・市の支援と住民の頑張りで、道路の復旧や公費解体が進み復旧が進んでいますが、一方で、空き地が増え、転居者が増え、伏木のまちは大変寂しい状態になりました。

伏木は万葉の時代から伏木港を中心に発展してきた、歴史と文化に彩られたまちです。今回の地震によりまちの様子は大きく変わりましたが、長い歴史の中で先人たちが幾多の困難を乗り越えてきたように、私たちもきっとこの困難を乗り越えることができると信じています。その様な意味からも、伏木の50年後100年後を見据えた未来像を描き、住民が力を合わせて次の世代に誇れるまちづくりを進めて行きたいと思います。

結びに、発刊にあたり今日までご協力頂きました多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、伏木のまちが昔の様な光輝くまちに復興する事を願い、発刊のご挨拶といたします。

伏木地区復興ロードマップ推進委員会 会長
坂 廣志



伏木のまち未来ブックとは

2024年1月1日の能登半島地震により、伏木地区は液状化などの被害を受け、まちの姿は大きく変わりました。大切な風景が失われつつある一方で、私たちの暮らしや思いの中には、今も伏木らしさが息づいています。

これからの伏木地区を考えるために、まずは「今」を見つめ直し、このまちの未来についてみんなで語り合うことが大切だと感じました。その思いから、全4回の「まちづくり懇談会」を開催しました。この「まち未来ブック」は、そこで交わされた声やアイデアをもとに、これからの伏木が目指す姿をまとめたものです。

復興への歩み方や思いは、人それぞれです。

だからこそ、このまちが目指す姿を共有し、それぞれの一步を重ねながら、復興のその先にも続く伏木のまちに向けて歩みを進めていきます。

目次

伏木のまち未来ブックとは	02
このまちでは、どんな未来を目指す？	03
伏木のまちの未来像	05
未来像を実現するための方針	07
方針1 歴史や自然を活かし、伏木らしさを高める	09
方針2 つながりと心身の豊かさを育む居場所をつくる	13
方針3 商いを育み、暮らしの豊かさを広げる	17
方針4 想いを伝え、支え合う輪を広げる	21
取り組みのつながり	25
場所やエリアごとの取り組み	27
伏木地区ってどんなところ？	31
伏木に生きる私たちの思い	33

このまちでは、 どんな未来を目指す？

伏木に暮らす私たちは、このまちに多くの魅力があると感じています。そして、まちに対する誇りや愛着が今もなお深く息づいています。

一方で、能登半島地震をきっかけに、建物の解体が進み、多くの人がまちを離れ、風景や人とのつながりも大きく変化しました。

また、たくさんある伏木の魅力を、まだ十分に活かしきれていないのではないか、このまちの良さを、外の人にうまく伝えきれていないのではないか、そんな思いもあります。

だからこそ、これまで積み重ねてきた歴史や自然、人の営みといった伏木の魅力に、これからも一人ひとりが関わり続けられる未来を考えていきます。

まちの現状

伏木のまちは様々な魅力をもつ

しかし、

震災による影響
魅力を活かしきれていない

目指す姿

まちの魅力や資源に、住民一人ひとりが主体となって関わり続けられる姿

まちづくり懇談会で語られたまちの魅力

受け継がれてきた祭り 「伏木曳山祭り・けんか山」



祭りの時期になると、外に出た人たちが帰ってきてくれるんだ。若い人も来てくれるので、まちが元気になる。

山を持っていない自治会でも、けんか山祭りを毎年楽しみにしているよ。

国宝・勝興寺

伏木の歴史を象徴する寺院。大型の本堂や大広間などが2022年に国宝に指定されています



小さい頃は、勝興寺の境内でよく遊んでいたよ。

勝興寺は、伏木を代表する観光の名所だね。国宝に指定され、訪れる人も増えているよ。

積み重ねてきた歴史

万葉の歌が息づく



伏木といえば万葉集。万葉歴史館は、万葉の世界を感じられる素敵な場所だよ。万葉衣装を着られる体験もあるんだ。

かつて伏木には、奈良時代に越中国府が置かれ、大伴家持が赴任していました。万葉集に収録される家持の多くの歌は、このまちで詠まれたものです。

大伴家持は、この伏木で多くの歌を詠んだんだ。万葉集に出てくる歌が、まちのあちこちの家に飾られているよ。

海と共に育んできた 営みがある



廻船問屋の家に生まれた藤井能三さんが、伏木小学校などをつくったんだ。今でも毎年4月には、能三祭が行われているよ。

伏木は北前船の寄港地として栄え、様々な用途の港として発展した歴史があります。現在も伏木港には、ダイヤモンドプリンセス号などの大型客船が停泊します。

小矢部川には昔、ロシア船が入ってきていたんだ。フィリピンやタイの人が切手を買いに来ていたのを覚えているよ。

豊かな自然と ともにある暮らし



二上山からの景色が良くて、昔は山に登って、スキーをして遊んでいたんだ。

伏木には山・海・川といった豊かな自然があります。この景色は万葉集にも読まれています。

山・川・海が近くて、伏木ではいろいろな自然を体験できるよ。小さい頃は、海や山でよく遊んだなあ。

人びとのつながりがある

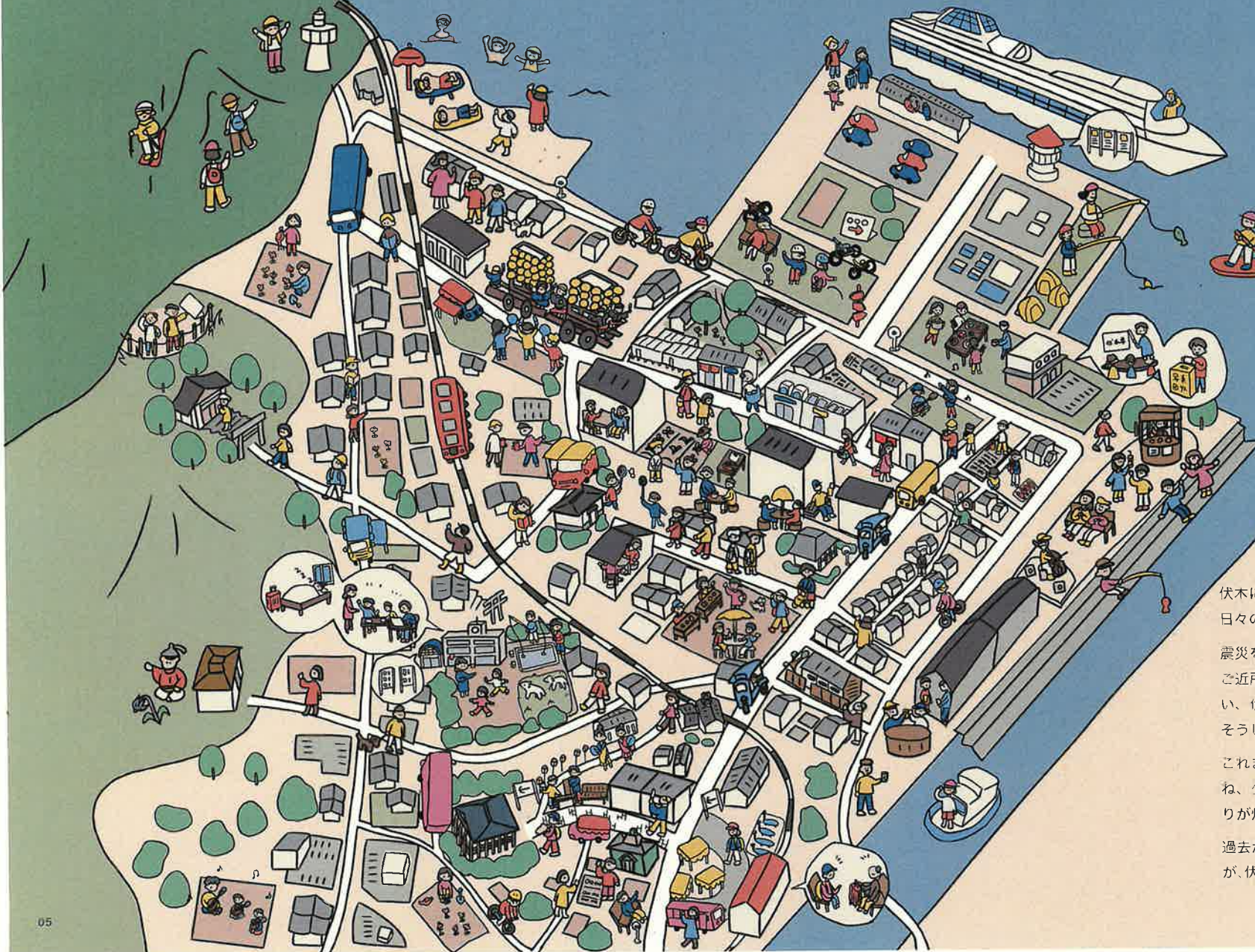


近所に知り合いが多くて、自然と人付き合いがあるところが、住みやすく魅力だね。

このまちには、珈琲屋さんや古本屋さんなど、自分の居場所だと思えるお店があるよ。

まちの未来像

文化を育み、生きる伏木



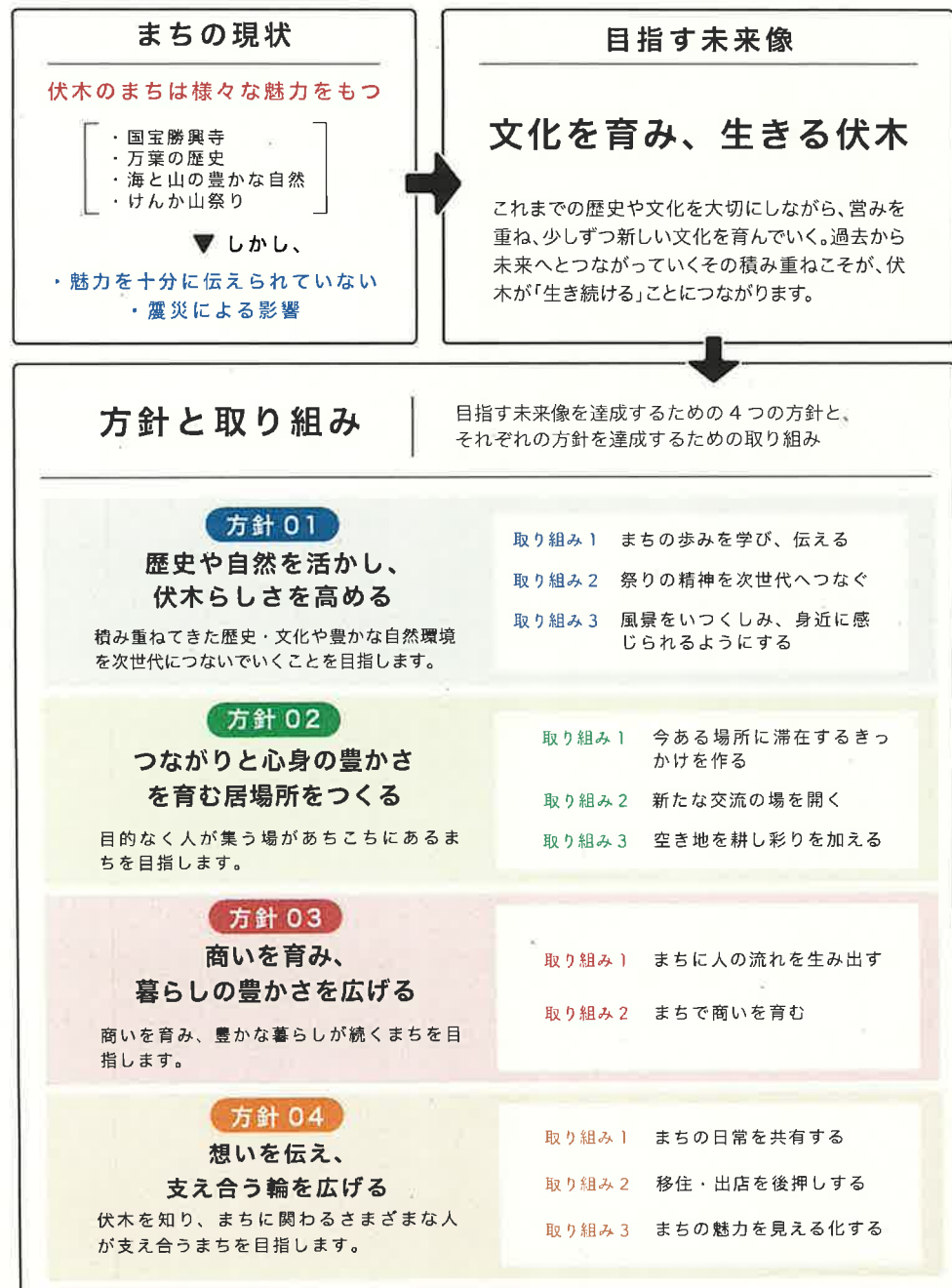
伏木にとっての「生きる」とは、このまちに根ざす日々の営みそのものです。

震災を経験した今も、ここで暮らし続けていること。ご近所との何気ない会話や、のれんを守り続ける商い、伏木のまちに変わらず流れる日々の時間。そうした一つひとつが、このまちの力になります。

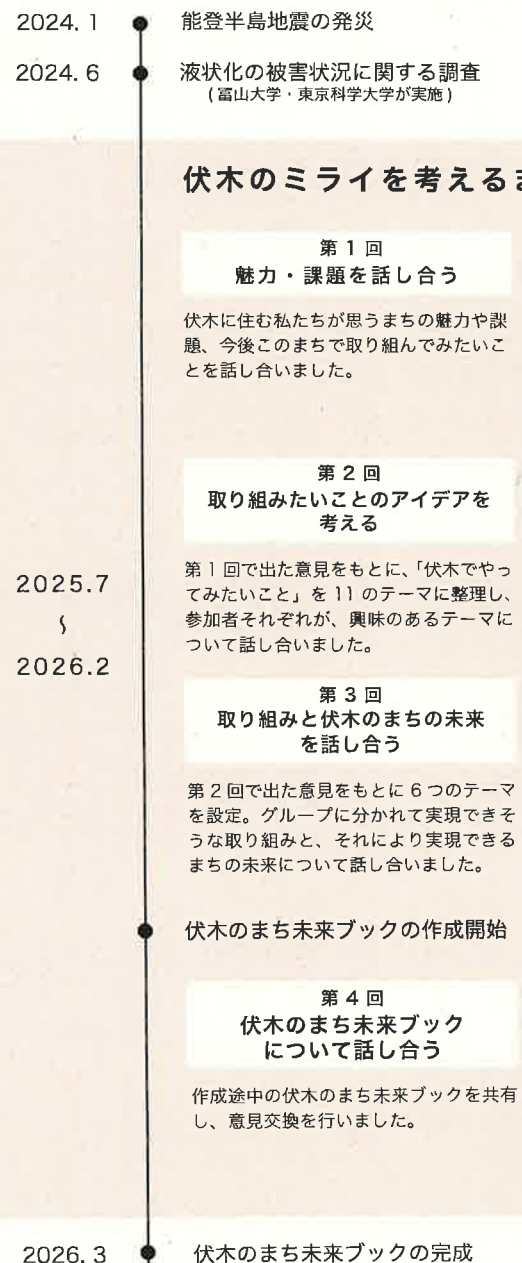
これまでの歴史や文化を大切にしながら、営みを重ね、少しずつ新しい文化を育てていく。商いに明かりが灯り、人の行き交いが戻ってくる。

過去から未来へとつながっていくその積み重ねこそが、伏木が「生き続ける」ということにつながります。

未来像を実現するための方針



伏木のまち未来ブックができるまで



歴史や自然を活かし、 伏木らしさを高める

#歴史 #文化 #祭り #伝統 #自然環境

1 まちの歩みを学び、伝える

2 祭りの精神を次世代へつなぐ

3 自然を身近に 感じられるようにする



積み重ねてきた歴史・文化や豊かな自然環境が次世代につながれていくまちへ

万葉のふるさととしての歴史、北前船の寄港地、そして工業港へと発展し栄えた港町の記憶、伏木曳山祭りや獅子舞のような伝統行事など、伏木には多様な歴史と文化が今も息づいています。また、山・海・川に囲まれた豊かな自然環境の

中に立地していることも大きな魅力です。しかし、震災や高齢化の影響から歴史・文化的資産は危機に瀕し、管理の問題から自然との距離も離れています。このような中でも、伏木らしさを次世代につないでいくことを目指します。

魅力や資源

さまざまな伏木らしさが今も息づく

豊かな自然環境

二上山のふもとに位置する港町である伏木は、山・海・川に囲まれた自然豊かな環境が魅力です。

積み重ねてきた歴史

奈良時代、越中国府が設置されていたことや、江戸時代以降の港町としての歴史にあふれています。

伝統的な祭礼文化

けんか山祭り（伏木曳山祭り）や、獅子舞などの祭礼文化があります。

▶ 伏木のこれまで

奈良時代

越中国府が置かれ、大伴家持が赴任する

奈良時代には越中国府が設置されていました。国守として赴任した大伴家持が、この地で万葉集に含まれる多くの和歌を残したことから、万葉のふるさとと呼ばれています。まちのなかには、石碑や大伴家持像、歴史館があるほか、家々には万葉集の和歌が書かれた木札が飾られています。

江戸時代

北前船の寄港地として栄える

北海道から大阪までを結ぶ北前船の西回り航路の寄港地となり、港町として繁栄しました。当時、北前船は宝船とも呼ばれており、7軒の廻船問屋（七軒問屋）が力をもちました。北前船資料館として残る旧秋元家もそのひとつです。

明治時代

伏木港の近代化

明治期には伏木港の近代化が始まりました。1859年にロシア船が来航し、藤井能三の働きにより、西洋の汽船、伏木測候所の設置といった伏木港周辺の近代化が進み、1899年に伏木港が開港しました。その後伏木港の工事が行われ、大規模な汽船が接岸できるようになりました。

大正・昭和時代～

工業化とロシアとの交易

1917年以降は、伏木港は工業地帯として、工業港となりました。その後1926年から1935年にかけて第二期の港の拡張工事や埋め立て事業が行われ、港の拡張が進みました。戦中は一時停滞していましたが、1952年には再開し、日本とロシア（旧ソ連）の定期航路寄港地としても発展が進みました。

資料文庫 伏木市史資料文化館蔵 https://www.city.fukui.lg.jp/csrn/1/2/2/5/114.html 2024/3/29 更新 (閲覧日 2026/3/4)
 么島社社人 高岡市観光協会 歴史観光ナビ https://www.fukui.or.jp/feature/detail/55.html (閲覧日 2026/3/4)
 伏木ライオンスクラップス カドイタR. 1982年

現状や課題

伏木らしさの喪失と担い手不足

解体による街並みの喪失

震災により、まちに昔からあった建物も被害を受け、解体により歴史的な建造物もいっつかまちから姿を消しました。



担い手不足

歴史文化の語り手や、祭りの担い手など、次世代に「伏木らしさ」をつないでいく者が少なくなっています。



取り組みの内容

歴史・記憶

1 まちの歩みを学び、伝える

これまでバラバラになっていた思い出や記録を、誰でも見られる状態にするための土台を作ります。これまでの歴史が途絶えることなく可視化され、いつでも振り返られるような状態を目指します。

取り組みのアイデア

記録に残す

正式な資料には残らない、個人の思い出を含むまちのこれまでの姿を集めて記録し、次の世代へとつなぐ。

思い出の写真を収集する

昔の様子が伺える写真を回収するボックスやWebサイトを作成し、まとめて記録できるようにする。



まちのひとへの聞き取り調査

伏木に昔から住んでいる方に、昔のまちの姿や当時の思い出について教えてもらい、記録する。

伏木は江戸末期から時代の節目に街並みを変えてきたよ。震災により更地になり、街並みから歴史を感じられなくなって残念...



学べる状態を作る

まちの歴史や震災の記録をいつでも見て学ぶことができる状態をつくる。

資料をまとめる

集まった資料を本やマップ、Webサイト、展示などにまとめ、自由に見られるようにする。



イベントの開催

歴史の勉強会や思い出を語る座談会、現地を歩きながら学ぶまちあるきなどを開催する。



伏木の産業、それに関連した古府焼きの歴史を記録して残したい



祭り・伝統

2 祭りの精神を次世代へつなぐ

けんか山祭りや獅子舞などの伝統文化を、関わる方法を増やしたり運営方法を更新することで、担い手の裾野を広げ、次の世代へバトンを渡せるような体制をつくります。

取り組みのアイデア

祭りの運営方法を更新する

若者や外国人に参加の機会をひらく

高校生や外国人など、伏木に関わりがない人も祭りに参加できる体制をつくる。また、窓口を設置し、多くの人に参加してもらいやすくする。



祭りに参加してみたいけど、誰に聞けばいいのかわからない。窓口がわかりやすいと嬉しい



けんか山グッズ・山町ごとのファンクラブ

グッズ販売や山町ごとのファンクラブ、クラウドファンディング、資料館の運営など、楽しみながら活動資金が得られる仕組みを取り入れる。



けんか山祭りに集まる若い人を増やしたら移住にも繋げられるのでは？



景観・風土

3 自然を身近に感じられるようにする

海・川などの自然環境を感じられるような場所を整備し、その豊かさに触れられる機会を増やします。

取り組みのアイデア

親水空間を整備する

小矢部川沿いの整備

小矢部川沿いの倉庫の改修や護岸の整備を行い、散歩や釣りなどで伏木ならではの自然を日常的に感じられるようにする。また、イベントなども実施する。



防波堤に絵を描いて訪れてもらうきっかけにしたい



川・海でのアクティビティ

かつての渡し舟を思わせる遊覧船をつくり、川を渡ったり、海や川から伏木のまちを眺められるようにする。



かつてのように、川・海をより身近に感じられるようなまちになるといいね



複合的な取り組み

歴史・伝統・風土を伝える

伏木を体系的に学べる場づくり

資料館の設置

伏木の歴史や文化、産業、気候や風土などを、体系的に学べる資料館をつくる。まずは住民が伏木について詳しくなれる環境を整える。



まちの歴史を学び、震災で揺らいだ自分の拠り所を見つけ直したい



閉校になる伏木小学校を使うことはできないかな？



実行に向けたヒント 「まずはここからやってみよう！」

① 思い出の写真回収ボックスの設置

家に残るアルバムなどから提供できる写真を入れてもらう箱を、伏木コミュニティセンターや協力いただけるお店などに設置し、資料を集める。

② 写真をもとに過去を調べてみる

集まった写真をもとに、思い出を語り合ったり、昔のことについて、気になったことを更に調べてみる。

③ 過去の写真と今を比べるまち歩き

集まった写真が撮られた場所に行き、現在と過去の様子を比べながら、まちのこれまでについて話すまち歩きを実施する。

④ わかったことを展示・公開する

集まった写真や、分かったことをまとめ、展示やマップなどに落とし込み、誰でも見られる状態にする。

つながりと心身の豊かさを育む 居場所をつくる

交流の場 # 空き地 # 多世代交流 # イベント・マルシェ # 公民館



ふらっと立ち寄れる場があちこちにあるまちへ

特色ある産業・観光地・歴史・地域に根差したお店がありながら、少子高齢化や、震災により住む人が減り、空き地が目立ってしまっています。もともとあった賑わいを取り戻したい、現在伏木に住む人もそうでない人も伏木の地に「居

場所」があってほしいといった想いがこの方針には込められています。新たな活動が生まれ、つながり、また新たな活動へと広がっていくこと、外出のきっかけを生み出し心身ともに健康になることを目指します。

魅力や資源

人々の居場所となる場や機会がまちにある

人とのつながり

昔から住んでいる人が多く、近隣住民との深い関係性があります。

滞在できるお店

喫茶店や居酒屋など、いつの間にか時間が経つような楽しい居場所がまちのなかに残っています。

駅前での朝市

駅前では、「ふれあい朝市」が4月～12月の間、月に2回開催されています。

▶ 今のまちの居場所となっている場所

嘉太郎珈琲

ここに来れば一息付けるまちの人に愛されている憩いの場。土曜夜にはバーとしても営業しています。時には音楽ライブ・コンサートも行われています。



堀田商店

鮮魚店としての役割のほかにも、魚を捌いてもらうのを店内で待つ時間が、お客さん同士の会話のきっかけとなっています。



古本なるや

日常の延長線上に、情報や人とつながれる場所、悩みを共有できる場所があれば、という想いのもと、「気軽に話せる古本屋」として営業しています。



喫茶潮の音

震災後、まちの将来を考えるために定期的に会合が行われています。復興のため、まちのために有志が集まる空間となっています。



不遠寺

境内では、遊んでいる子どもや、散歩の途中に立ち寄ってひと休みする人の姿も見られます。仏さまを身近に感じられ、気軽に立ち寄ることのできるお寺です。



公園

玉川中央公園では、復興への希望を届けたいという思いを込めたイルミネーションが実施されました。他にも、本町公園はげんか山祭りの会場に、コミュニティセンター横の緑地は湯まつりの会場としてそれぞれ用いられています。

現状や課題

集まる機会の減少とひらかれた居場所の不足

公民館の解体



石坂自治会、中道自治会では、公民館が大きな被害を受けて解体されました。コミュニティセンターはあるものの、距離が遠かったり、気軽に使いにくい状況があります。石坂自治会では、不遠寺を会合や獅子舞の練習の場として一時的に貸し出していたりなど、地域の支え合いによって活動が続けられています。

居場所が十分に開かれていない



伏木には居場所となるお店や場所もありますが、そうした場所を知らない人も多く、一部のみに情報がとどまってしまっている面があります。また、外に出る機会が少ない高齢の方も多く、心身の健康への影響も懸念されます。

取り組みの内容

活動・にぎわい

1 今ある場所に滞在するきっかけを作る

空き地に直接手を加えなくても、外に出た時に「ちょっと座れる」「ちょっと話せる」ような、自然に人が集まる環境の整備や、外出するきっかけとなるような取り組みを実施します。

取り組みのアイデア

休憩スポットの設置

ベンチの設置

まちなかにベンチを設置し、長い距離を移動できない高齢者でも、休憩しながら安心してまちを歩ける環境を整える。



ベンチがあれば休憩しながらいつもより歩くことができる！

すでに行われているイベントも場所を変えると変化が生まれるかも！



空き地でイベントを実施する

既存イベントの拡大

駅前で行的されている朝市などの伏木のイベントを、まちに点在する空き地を活用して開催し、人が歩き、立ち寄るきっかけをつくる。



新たなイベントの実施

自分の得意なことを教え合う教室や、家にあるアートを持ち寄る展示会、音楽イベント、マルシェなど、住民が主役の新たなイベントを開催する。



拠点整備

2 新たな交流の場を開く

公民館をはじめとする屋内拠点を整備し、震災でまちを離れた人も含め、安心して交流できる居場所を作ります。

取り組みのアイデア

ふらっと立ち寄れる場づくり

サロンの設置

子どもと高齢者、伏木を離れた人なども含め、多世代を対象に、自治会を横断して集まれるような場をつくる。困りごとなどの日々の相談や情報交換が気軽にできる環境を整える。



ふらっと立ち寄れる、本音で話せる場が必要だよ

新たな公民館の再建

震災により解体された公民館を、今後求められる機能を考えながら再建する。



新しい活動の場づくり

古い倉庫をライブハウスにしたり、空き地をスケートパークにしたりして、若者もワクワクする活動の場に変える。



環境・みどり

3 空き地を耕し、彩りを加える

震災によって増えた空き地を耕し、花や街路樹を植えたり、野菜を育てて畑にしたりすることで、空いた場所に彩りを添え、心地よい風景をつくっていきます。

取り組みのアイデア

空き地を畑にする

野菜を育てる

空き地を耕し、地域の人たちで野菜を育てるコミュニティガーデンをはじめ。



収穫祭を開催する

みんなで育てた作物を収穫し、調理して食べるイベントを実施する。



野菜に詳しい方に教えてもらいながら挑戦したいという話があがったよ！



空き地に花や樹木を植える

小さな杜の都をつくる

眺めのいい空き地に草木や花を植えて、景色を楽しめる場所を作る。それを目当てに若い世代の人にも立ち寄ってもらえるのではないかな。



並木通りをつくる

サクラやイチョウの木を植えて、並木通りを作る。季節によって景色が異なり、まちを歩くのが楽しくなる。



まちなかに緑が溢れるまちに変わるかもしれないね



実行に向けたヒント

「まずはここからやってみよう！」

①使える場所をさがそう

解体後の空き地や、使われていない駐車場など、持ち主の使用許可が得られる場所を探そう。

②ベンチや鉢植えの設置

ちょっと座って話せるようなベンチや、四季の花が楽しめる鉢植えを置いてみよう。

③取り組みを広げていこう

ベンチを点在させることにより、休憩をしながら歩きやすいまちにしていく。

④ベンチのまわりをにぎやかにしよう

ベンチのまわりに鉢植えを置いたり、テーブルを置いたりして、座るだけでなく、集まれる場としての機能性を高めていく。

⑤小さな杜の都をつくる

草花や樹木を植えて、写真映えもするまちなかの小さなオアシスをつくる。

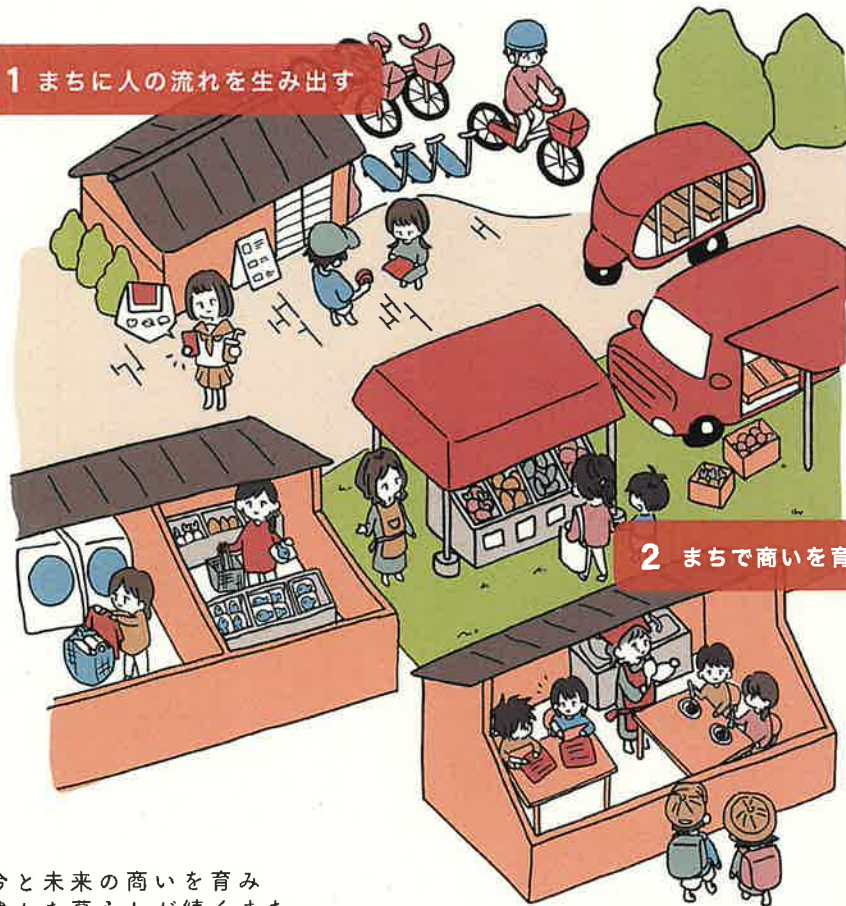
⑥人の移動と会話のきっかけを支える場所へ

まちなかに緑あふれる休憩スポットが増えれば、足の悪い高齢者でも徒歩移動が可能になる。また、会話のきっかけが多く生まれるまちになる。

商いを育み、 暮らしの豊かさを広げる

#お店 #住まい #暮らし #交通 #空き地活用 #チャレンジ

1 まちに人の流れを生み出す



2 まちで商いを育む

今と未来の商いを育み
豊かな暮らしが続くまちへ

震災により、伏木では多くの店舗が被害を受け、閉店や移転を余儀なくされました。その結果、日常の買い物が不便になり、暮らしの環境も変化しています。一方で、震災後も伏木での商いを守り続けているお店もあります。まずはまちの移動のハードルを下げ、今あるお店を訪れや

すい仕組みを整えます。そして既存の店を大切にしながら、商いの再スタートや新しい商いにも取り組みやすい環境を整えます。伝統あるお店と新しい商いの芽、そしてそれらを結び便利な交通。これらが一繋がりになることで、暮らしや商いが続いていくまちを目指します。

魅力あるお店とチャレンジできる可能性

人を惹きつけるお店

震災を経ても続けられるお店や、震災後にこのまちへの思いを持ち、新しくお店を始める人々が存在します。

新たなことに 挑戦できる空き地

新しいことにチャレンジできそうな、空き地や跡地があります。

商いの文化

かつては多くの商店が並び、人の往来で賑わっていました。中道通りは、人が歩くのも大変だったと言われるほど商いが盛んでした。

▶ 伏木のお店



凡例

- 飲食店
- 小売店
- その他
- NEW 新しい / 再建・移転したお店

※掲載している内容は、2025年5月に実施した学生によるフィールドワークをもとに作成しています（2026年3月更新）。内容は必ずしも正確ではない場合がありますので、ご了承ください。

現状や課題

まちの巡りにくさや、日常の買い物に課題

まちを巡る手段が少ない

現在の伏木には、お店や観光地が広範囲にある一方で、それらを巡るための手段が少ない状況にあります。



買い物できる場所が少ない

震災の影響で多くの店舗が被害を受け、閉店や移転が相次ぎました。その結果、伏木では買い物がしにくい状況となっています。



取り組みの内容

交通

1 まちに人の流れを生み出す

点在する商店や拠点、参道や空き地などをつなぎ、住民の生活を支える交通の動線としても機能させながら、まちの中に人の流れを生み出します。伏木の魅力に自然と触れられるようにすることで、車で訪れた人も、ついまちを巡りたくなる、そんな状態を目指します。

取り組みのアイデア

移動しやすいまちなかをつくる

移動手段を増やす

- ・電動キックボード
- ・トゥクトゥク
- ・相乗り形式のタクシー
- ・コミュニティバスなどの運用を始める。



住民も一端を担いながら支える地域交通の仕組みがあるといい。



駐車場を周知する

駅前やまちなかの、駐車場を周知できるような仕組みをつくる。車で伏木を訪れた人が、歩いてまちを巡りやすいような環境を整える。

レンタサイクルの仕組みを改善する

レンタサイクルを複数の場所で返却できるようにすることで、現状よりも使いやすくする。クルーズ船の観光客が気軽に利用できるような仕組みをつくる。

お店に訪れるきっかけをつくる

ナショナルサイクルルートの活用

サイクリストの休憩拠点となる場を整える。また、ルート沿いに飲食店や立ち寄りやすい施設を増やすことで、まちへの立ち寄りや滞在を促す。



ナショナルサイクルルートとは・・・
国が指定した、官能や地域の魅力を
楽しみながら安全に歩けるよう整備
されたルート。



観光客だけではなく、
足の悪い方、車を持たない方など、
住民の足として機能してほしいね。

実行に向けたヒント 「まずはここからやってみよう！」

レンタサイクルをもっと “見える”仕組みに

①レンタサイクルの設置場所を、現在の設置場所より目につきやすい、駅舎の目の前にも設ける。

②案内サインやマップ、使い方の見える化を行い、「来たらすぐ使える」状態をつくる。

③すぐ使える状態になることで、車を使わずとも伏木内の名所やお店を気軽に回ることが出来る。

商い

2 まちで商いを育む

今あるお店に人が訪れる機会を増やすとともに、新しい商いに挑戦できる環境を整えることで、住民の暮らしを支え、より楽しく暮らせるまちを目指します。

取り組みのアイデア

お店への立ち寄りを増やす

伏木のお店を巡るスタンプラリー

伏木内のお店を巡る仕掛けとして、スタンプラリーを開催する。



スタンプを集めたら、
けんか山グッズがもらえるよ！
みたいなのがあってもいいかも。



移動スーパーの導入

高齢者や車を持たない人も気軽に買い物できるよう、伏木内を巡る移動スーパーを導入する取り組みを行う。



買い物と交流を支える、仕組みを作る

マルシェ・朝市の開催

商いや交流が生まれる場をつくるため、空き地を活用してマルシェや朝市などを定期的に開催します。移動可能なテントや販売車を活用し、さまざまな場所での開催を目指す。



駅前で開催されている朝市を、
空き地で開催しても良さそう！



集合店舗

若者が新しいお店に挑戦できる場として、また震災で被害を受けた店舗や、これからお店を始めたい人が再スタートできる環境を整えます。コンテナなどの簡易的な建物を活用し、小さく始めながら、人が集まり新しい商いが生まれる拠点をつくる。



世代やニーズに応じた商いを育てる

みんなの食堂

地域の子どもたちが安心して立ち寄れる居場所。食事を通して世代を超えた交流が生まれ、家庭でも学校でもない気軽に通えるお店をつくる。



駄菓子屋

地域のお年寄りが店番をし、子どもたちと自然に言葉进行す小さな交流拠点。買い物以上の価値を生む、世代をつなぐ場。

できる人が、できるところから
始めることが重要だね。



私たち学生も、
何かチャレンジしてみたい！！



伏木駅〜コミュニティセンターの
道路沿線の空き地を使ってもいいかも。



若者が楽しめるお店

学校帰りや夏休みに気軽に集まれるお店を運営する。若者の興味・関心に添った内容を取り入れて、より楽しめるような場をつくる。



若い世代がこのまちで
過ごしたいと思える、楽しめる場
をつくりたいな！



実行に向けたヒント 「まずはここからやってみよう！」

①マルシェの開催

空き店舗や既存店舗、空き地などを活用し、お店をしたい人や新しいことに挑戦したい人が、無理なく試すことのできるマルシェを開催する。

②商いに挑戦しやすい環境

出店者同士や既存の商店とのつながりが生まれる仕組みをつくり、商いに挑戦してみたい人が気軽に始められる環境を整える。

③新規出店・集合店舗の常設

取り組みを継続することで、将来的な新規出店や集合店舗の設置につなげていく。

想いを伝え、支え合う輪を広げる

情報発信 # 復興の過程 # 移住・出店 # 転居者 # 観光

1 まちの日常を共有する



2 移住・出店を後押しする



3 まちの魅力を見える化する

伏木を知り、まちに関わるさまざまな人が支え合うまちへ

伏木には、歴史文化や祭礼などの豊かな資源に加え、まちを想う人々や空き家活用といった挑戦の可能性がります。しかし、現状はそれらの「想いや情報」が十分に届いていません。地域内では日常の共有や復興の歩みが見えにくく、

伏木には、歴史文化や祭礼などの豊かな資源に加え、まちを想う人々や空き家活用といった挑戦の可能性がります。しかし、現状はそれらの「想いや情報」が十分に届いていません。地域内では日常の共有や復興の歩みが見えにくく、地域外へ

魅力や資源

伝えたい人や情報がたくさんある

まちを大切に想う
人がある



営業を続けるお店や歴史文化を残そうとする人々など、まちに誇りや愛着を持ち、大切に思う人たちがいます。

新たな挑戦に向けた
可能性



空き地や空き家が、新たな挑戦の場となる可能性があります。

多くの魅力的な
資源を持つ



勝興寺や万葉の歴史、けんか山祭りなど、様々なまちの魅力があります。

現状や課題

想いや情報が、十分に伝わっていない

地域内の情報共有



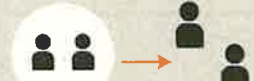
日常の情報が伝わりづらい

回覧板だけでは、日々の連絡や急な情報が十分に伝わらないことがあります。より気軽に、素早く共有できる仕組みが求められています。また、震災によってやむを得ず伏木を離れてしまった人が、伏木に関わり続けられる情報が伝わっていません。

まちの今が、見えにくい

復興に向けた動きや日々の変化が十分に伝わらず、まちの今の様子が見えにくくなっています。

地域外への情報発信



伏木の魅力が、十分に伝わっていない

様々な魅力があるものの、その魅力を十分に伝えることができていません。

復興に向けた歩みが、届ききっていない

復興に向けて想いを持って取り組んでいる人たちの姿や想いが、十分に伝わっていません。

移住や出店に向けた情報や仕組みが十分でない

挑戦を後押しする土壌はあるものの、情報不足により移住や出店のハードルが高く感じられます。

取り組みの内容

日常

1 まちの日常を共有する

まちの日常や今を伝え、共有することで、まちに関わる人同士のつながりを深め、新たに関わる人の輪を広げることを目指します。

取り組みのアイデア

地区内での情報共有

自治会のグループLINE

玉川自治会で行われているように、災害時の安否確認の迅速化や回覧板のデジタル化、日常の情報共有などを目的に、グループLINEを活用する。



ミニコミ誌・壁新聞

伏木内でのイベント情報や防災情報、お店の情報などを発信する。



離れている人とまちをつなぐ

故郷の今を届ける SNS

伏木を離れた人が、まちの今の様子やささいな変化を知ることができる発信を行う。

外の人へまちの現状を伝える

震災後のまちを伝える


震災後のまちの現状や復興の様子、住民の想いなどを知ることができる場や機会をつくる。




外から関わるきっかけをつくる

空き地の活用アイデアの募集など、まちの外の人から「自分も何か関われるかも」と感じられるきっかけをつくる。

子どもから高齢の方まで、幅広い世代が楽しめるような仕掛けがあったらいいな。



一人ひとりの生活に合わせて、情報のやりとりができるようになったら、便利かも！



移住・出店

2 移住・出店を後押しする

移住や新規出店への一歩を踏み出してもらうため、空き家やまちの情報を伝える仕組みを整えることで、挑戦したい人や移住したい人が一歩を踏み出しやすい環境をつくることを目指します。

取り組みのアイデア

移住・出店のきっかけを作る

出店者の声を伝える

実際にまちで商いをしている人の話を伝え、出店を考える人が具体的にイメージできるようにする。



段階的な関わり方を伝える

「まずは週末だけ住んでみる」「まずは簡単な商いから」など気軽に試せる関わり方を伝え、伏木への移住・出店のきっかけをつくる。




移住・出店に必要な情報を伝える

空き家の情報

移住や出店をしたい人が、スムーズに一歩を踏み出せるように情報を発信する。



伏木に移住・出店したい人を迎える受け皿をつくっていくことが大事になってくるわ。



観光

3 まちの魅力を見える化する

伏木の魅力や資源を伝え、巡るのが楽しくなる情報の発信や仕組みづくりを通して、まちの外から人の流れを生み出すことを目指します。

取り組みのアイデア

伏木の魅力を伝える SNS

SNS での情報発信

SNS (Instagram、Youtube など) で観光スポットやお店などを発信し、主に若年層が伏木に訪れる。きっかけを作る。



SNS の発信を視覚的に取り組むために、運営体制をしっかりと整えていく必要があるね。



伏木の魅力を伝える SNS

マップの制作と設置

歴史や飲食店、短時間滞在など、ニーズに合わせたマップを作成し、クルーズ船の乗客や観光客が伏木での滞在を楽しめるきっかけを作る。



歩きながら伏木を知る仕掛け

電柱やマンホールに QR コードを設置し、スマートフォンで読み取ることで、伏木の見どころに出会える仕組みをつくる。



伏木駅やコミュニティーセンターに伏木の観光名所、喫茶店、食べ所などを映像で映し出したら面白そう！休憩所として設置にしてみてもいいかも！



案内板・サイン計画

クルーズ船で訪れる外国人観光客に向けた、多言語に対応した案内板やサインを整備し、訪れた人がまちを巡りやすくする、きっかけを作る。



QR コードを読み取ることで、マップの載せきれない情報を知ることができるようにしてみるのもいいかも！



複合的な取り組み

情報を組み合わせる

まとめて伏木を伝える

まちの情報がまとまったホームページ

伏木の日常・移住・出店・観光に関わる情報を単体で発信するのではなく、まとめて伝えることができるホームページを作成する。

伝え方を組み合わせる

ウェブに繋がるマップ

マップに QR コードを掲載し、読み取ることで店舗情報やまちの歴史など、誌面では伝えきれない情報を詳しく見られるようにする。

実行に向けたヒント 発信方法

アナログ媒体

(まち歩きマップ、回覧板、掲示板など)

良い点：インターネットを利用しない層にも情報が届く、紙として手元に残る。
難しい点：制作や更新に手間がかかり、広く拡散しにくい。

デジタル媒体

(SNS、ホームページ、LINE など)

良い点：気軽情報を発信することができる、拡散力がある。
難しい点：SNS や HP など、媒体に合わせて伝え方を変える必要性。

情報発信で大切なことは続けること。届けたい相手に合わせて発信方法を選び、それぞれができる形で発信しながら、無理なく続けられる運営体制をつくる。

取り組みのつながり

方針ごとに紹介した取り組み同士のつながりや、方針を横断した関係性のイメージをまとめました。

凡例
 —— 取り組みの流れ
 深く関連しそうな取り組み

方針01

歴史や自然を活かし、伏木らしさを高める



方針02

つながりと心身の豊かさを育む居場所をつくる



方針03

商いを育み、暮らしの豊かさを広げる



方針04

まちの想いを伝え、支え合う輪を広げる



エリアごとの取り組み

4つの方針に基づく取り組みを、このまちで実際に進めていくとすると、どのような場所で、どのようなことができるでしょうか。

伏木のまちに住む私たちが大切だと感じている場所や、重要だと考える場所をもとに、そこで考えられる取り組みのイメージを6つのエリアごとにまとめました。



対象の6つのエリア

- ① 勝興寺と旧参道
- ② 伏木駅と駅前広場
- ③ 中道通りとかつちゃ広場
- ④ 伏木小学校
- ⑤ コミュニティセンターと玉川中央公園
- ⑥ 万葉ふ頭

① 勝興寺と旧参道

目指す姿 伏木の歴史や魅力に出会える、歩いて楽しめる参道

エリアの特徴

- ・伏木駅と勝興寺を繋ぐ動線は、傾斜が急な坂道が多くみられる。
- ・現在の参道には、伏木気象資料館や店舗など、勝興寺以外にも魅力的な資源が多くある。
- ・来訪者は伏木駅と勝興寺を往復することが多く、旧参道にある北前船資料館やまちなかへと足を運ぶ人はあまり多くない。

エリアの方向性

- ・参道を、居心地がよく歩きたくなる通りにする。
- ・参道や旧参道に点在している資源をつなぎ、より伏木での滞在を豊かなものにする。
- ・旧参道と現在の参道の特徴を活かす。旧参道は、細い通りの裏道感を活かして、より楽しめるような道にする。

将来イメージ



- 凡例
- 方針1
 - 方針2
 - 方針3
 - 方針4

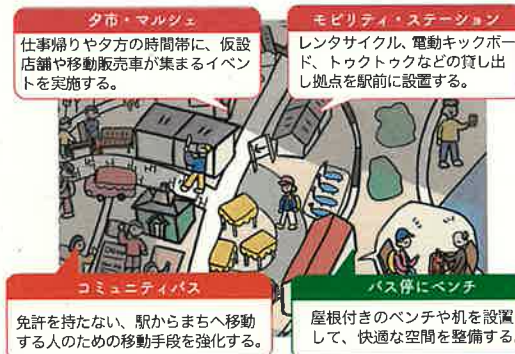
② 伏木駅と駅前広場

目指す姿 伏木の玄関口として、人が集まり、まちなかへと向かいたくなる駅前

エリアの特徴

- ・バス停や電車など、交通の結節点である。
- ・駅前には広い駐車場や、昔ながらの駅舎がある。
- ・駅周辺には、飲食店が集まっている。

将来イメージ



エリアの方向性

- ・駅前からまち全体に流れる動線や仕組みを整える。
- ・駐車場などの広い空間を活用し、人が集まるきっかけをつくる。
- ・ベンチの設置で、駅前での待ち時間を居心地よく過ごせる空間を整える。

③ 中道通りとかつちゃ広場

目指す姿 人々の営みや商いが広がり、息づく通り

エリアの特徴

- ・商住一体の家屋が多く見られる。
- ・かつては中道通りに行けば全ての買い物が完結するような、商業の中心地だった。
- ・通りには空き家・空き地が増えている。
- ・けんか山祭りのかつちゃの会場である伏木本町公園がある。

エリアの方向性

- ・空き家や空き地を活用し、新しい商いや活動が生まれる場を作る。
- ・人が自然と集まり、過ごせる場所を生み出す。
- ・けんか山祭りの際に、通りのお店や空き地を活用する。

将来イメージ



④伏木小学校

目指す姿 **さまざまな人が集い、学び、過ごせる旧伏木小学校**

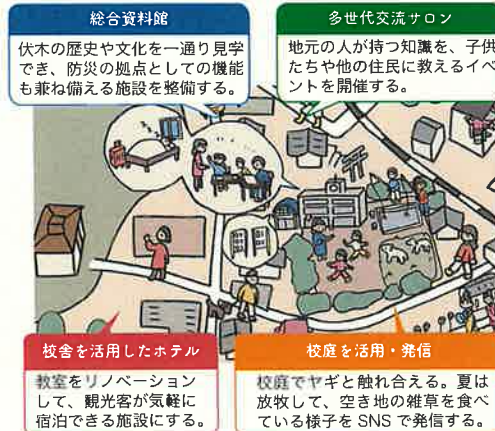
エリアの特徴

- ・明治6年に創立した、富山県内最古の小学校である。
- ・小中学校の統合により、数年で閉校となる予定である。
- ・高台に位置し、まちを見渡すことができる。
- ・校舎や校庭など、大きな空間を持っている。

エリアの方向性

- ・子供から高齢者まで、多世代の人々や、地域内外の人が交流できる場所にする。
- ・伏木の歴史、文化、風土などを学ぶことができる展示を作り、地域の記憶を伝える場所にする。
- ・高台に位置することから、防災の拠点として機能させる。

将来イメージ



⑥万葉ふ頭

目指す姿 **海とまち、人をつなぐ港の拠点**

エリアの特徴

- ・万葉ふ頭緑地は海に面し、釣りスポットや住民の水辺空間として親しまれている。
- ・伏木港はダイヤモンドプリンセス号などのクルーズ船の寄港地で、多くの外国人観光客が訪れる。
- ・北前船の寄港地や工業港として栄えた歴史がある。

将来イメージ



⑤コミュニティセンターと玉川中央公園

目指す姿 **伏木の価値を再発見し、人や思いが繋がる地域のコミュニティ拠点**

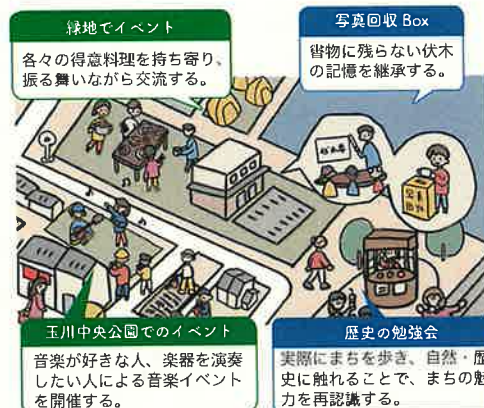
エリアの特徴

- ・コミュニティセンターは、イベントや会合の場として、伏木地区全体の住民が集まる拠点となっている。
- ・玉川中央公園やコミュニティセンター横の緑地など、広々とした開放的な空間がある。

エリアの方向性

- ・伏木コミュニティセンターを、伏木の歴史や地域のことを学び、思い出や情報を共有できる場とする。
- ・広場や公園を活かし、住民がやってみたいことを実現できる、イベントや活動の場をつくる。

将来イメージ



★広域的な取り組み

目指す姿

周辺地域と連携し、人の往来が生まれる広域のつながりをつくる

エリアの特徴

- ・近くに雨晴海岸や、重要伝統建築物群保存地区に指定されている吉久地区など、観光客が足を運ぶ場所がある。
- ・周辺スポットへのアクセスや回遊性に課題があり、これらの場所同士の連携が十分に見られない。

エリアの方向性

- ・レンタサイクルなどの二次交通を整備し、周辺地域を含めた回遊性を高める。
- ・周辺地域と連携し、それぞれの地域の魅力を発信していく。
- ・周辺地域も含めた観光ツアーなど、連携した取り組みを行う。



伏木地区ってどんなところ？

所在地



広域地図



伏木地区地図

人口 8,973人
(2025年12月現在)



※高齢化率(令和7年12月)地区別・年齢別人口より

伏木地区は富山県北西部、高岡市の北東端に位置し、東側を富山湾、西側を小矢部川に挟まれた、海と河川に面した地区です。

まちの成り立ち

伏木地区には、港を核に中心地を移しながら発展してきた、約1300年の歴史があります。始まりは奈良時代、万葉歌人でもある大伴家持が越中国守として赴任した時代です。当時のまちは現在の勝興寺から北西方向、標高約10mの台地にあり、国府や国分寺を中心に「条里制」による区画が広がっていました。戦国時代には、戦乱で焼失した勝興寺が国府跡地に再建されたことで、寺院中心の「寺内町」へと中心が移り、江戸後期から明治に

は北前船の寄港地として黄金期を築きました。また、明治期の大火や海洋浸食を機に、伏木神社や不遠寺が現在の場所で再整備され、市街地の原型が形作られました。その後、20世紀初頭に近代港としての役割を確立する一方、大火後の復興過程で、土蔵造りのしっくい塗りの防火仕様の寺院や洋風建築など、多様な様式が伏木の風景を彩るようになりました。こうした各時代の繁栄の跡が重層的に残っていることが、伏木地区の魅力の1つです。



1300年にわたる伏木のまちの広がり

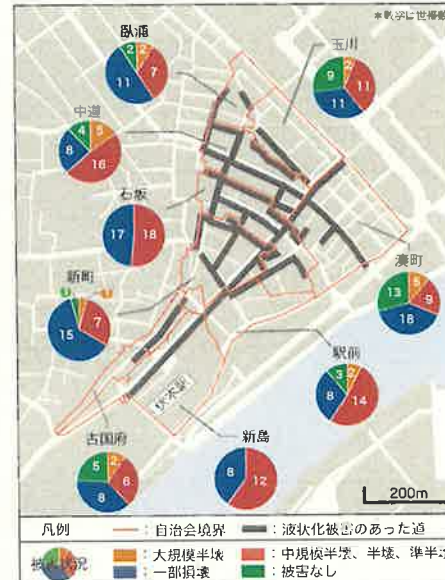
震災後のまちの現状

令和6年能登半島地震により、伏木地区は震度5強の揺れに襲われ、特に沿岸部に近い9自治会を中心に、甚大な被害が発生しました。盛土地や埋立地などで深刻な液状化が起き、建物の約半分が損傷、歴史ある建物や公民館も被災し、5日間の断水が発生しました。今も道路等の復旧工事は続いており、家の被害や地盤への不安から町を離れる人が増えています。こうした人口減少が進む中で、地域のコミュニティをどう守るかという切実な課題にも直面しています。一方で、形を変えて営業を続ける商店や、新しく店を出す動きなど、前向きな変化も生まれています。



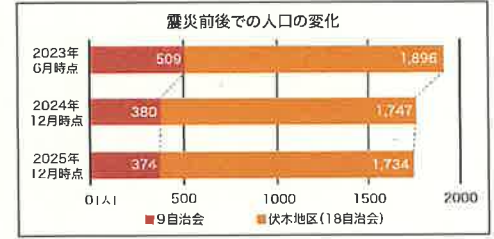
液状化被害によって傾いた建物

液状化による被害



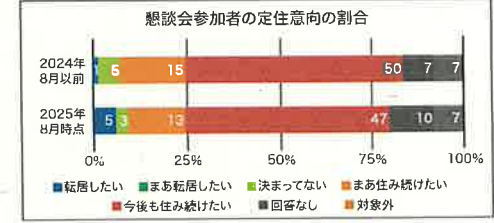
※大学が実施した調査結果をもとに、能登半島地震による建物・道路の被害状況を、特に液状化被害の大きかった9自治会を対象にまとめました。液状化による被害は、外見からは被害状況が分かりづらい特性上、9自治会全体として、中規模半壊や一部損壊が多くみられる結果となりました。

震災による人口減少



被災後、伏木地区全体の人口は約10%弱、液状化被害が大きかった9自治会の人口は約20%の人口が減少しました。

伏木に住み続けたい人が多い



定住意向の理由

- 地域への愛着があるため・出生地であるため
- 祭り(獅子舞・けんか山等)への関わりがあるため
- 住宅への愛着があるため・転居の金銭的余裕がないため... など



解体により広がる空き地



解体される旧伏木銀行



形を変え営業を続ける店舗

伏木に生きる私たちの想い

懇談会に参加した方々に、伏木のまちや、復興への想いを伺いました。



伏木で暮らす人

住民が主体となり、暮らしの再生を成し遂げたい

震災後、解体と工事が続き、店はまるで工事現場の中にあるようです。インフラ復旧は不可欠ですが、それだけでは人も商いも消えてしまいます。その危機を強く感じています。だからこそ住民が主体となり、学生の皆さんの力と共に、暮らしの再生を成し遂げたいです。



伏木で暮らす人

伝統を守り、次の世代が住みたいまちへ

震災を経験したからこそ、人が集い、助け合える強い地域を築いていきたいと思っています。地域の象徴である伏木曳山祭の伝統を守りながら、新しい力も取り入れ、次の世代が住みたいと思える伏木の未来をつくっていききたいと考えています。



伏木で暮らす人

守るだけでなく仕掛ける場所へ

変わらない安心も大切ですが、少しの違和感や挑戦がある方がまちは面白い。伏木が「守るだけでなく仕掛ける場所」になれば嬉しいです。



伏木で暮らす人

「本音」に帰ることのできるまちへ

伝統と革新のバランスが保たれようとしているなかで、期待の声から諦めがこぼれて、不安の隙間から笑い声が漏れる。日々を暮らす方も、懐かしい空気に誘われ帰省した方も、誰もが肩の力を抜いて「本音」に帰ることのできるまちを想像しています。



伏木で暮らす人

復興とは、未来を見据えた計画と発信

公費解体が進み、空き地が増えて街の景色が一変しました。道路復旧などインフラ整備は進んでいますが、住人の転居は増加し、まちの活気が失われています。液状化対策にも相当の期間が必要で、まちを出た人が戻ってくる可能性は低いと思います。20年後、30年後の将来を見据えた計画を立て、それを広く発信する。それにより、新たに移り住み、商売を始める人が現れることが、本当の意味での復興だと思います。



伏木で暮らす人

歴史を繋ぐまちへ

たくさんの歴史を繋いできたこの伏木には、これまで営んできた人々の想いも詰まっています。そして震災を機に、皆さんと話し合う機会が増えました。伏木が住みやすい町になると同時に、いかにこの歴史を次の世代に繋いでいくかを、皆さんと学びながら、考えていきたいと思っています。



伏木を離れて暮らす人

震災を機に見えてきたまちの姿を残したい

震災からの2年でいろいろなものがなくなり、いろいろなものがあらわになった気がします。古いものや新しいもの、知らなかったことや知りたくなかったこと、そのどちらともつかないものなど。せつかく顕在化したまちの姿なので、広く長く残ってほしいです。



伏木に関わる高校教諭

地域に住む方々と共に、よりよい未来を共創したい

伏木は古くから、歴史や文化、産業などが発達し、様々なものの素地が揃っているところ。地域に住む方々と共に、よりよい伏木の未来を創っていただけたらと思います。



伏木に関わる高校生

自分の学びを復興に活かしたい

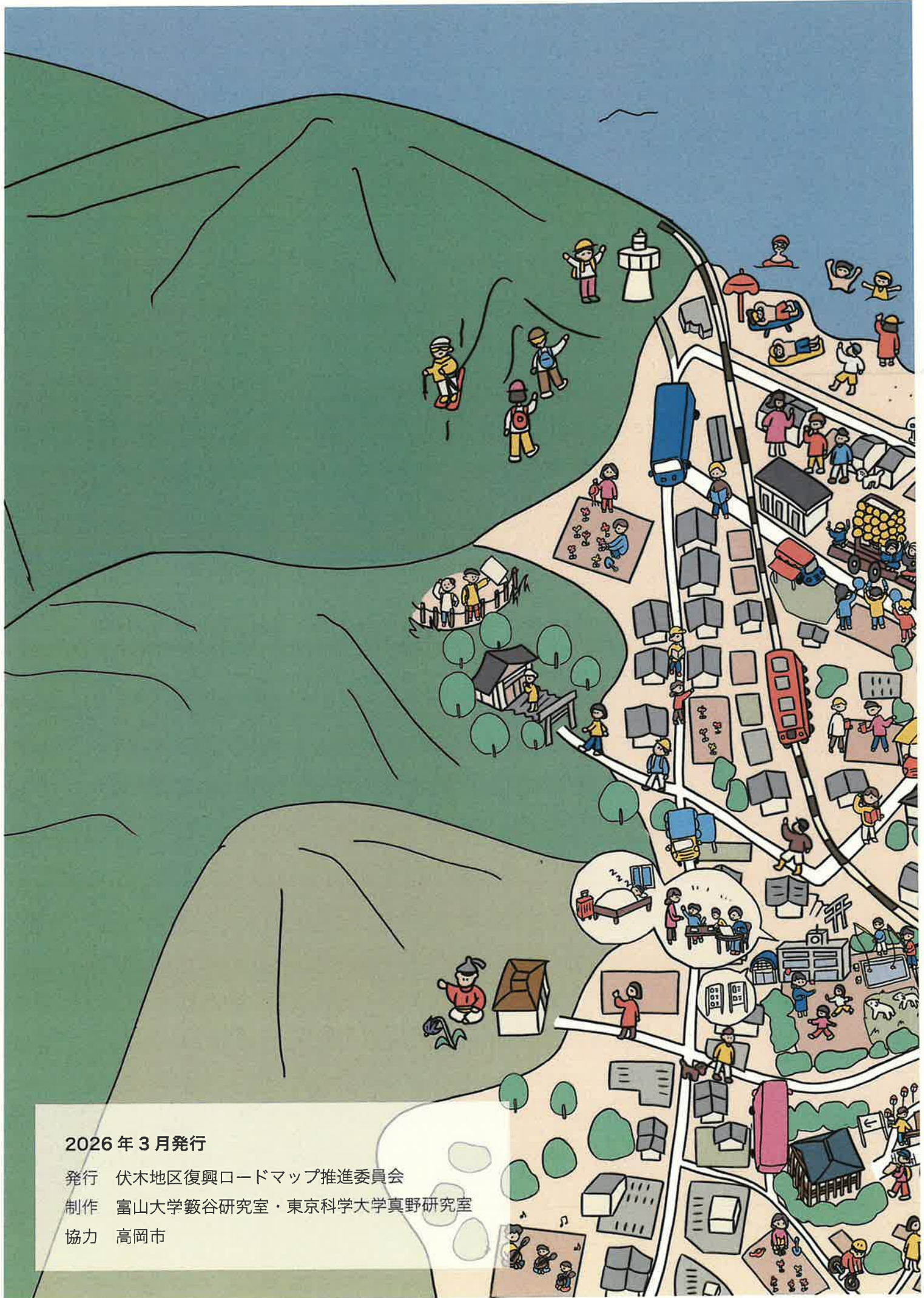
伏木は復興を前向きに考えておられる素敵な地区だと思います。高校のフィールドワークや懇談会を通して学んだことを生かして探究活動をし、復興のお力になりたいと考えています。



伏木に関わる大学生

より良い伏木の未来を、住民の皆さんと考えていきたい

震災後、変わり続ける風景を目の当たりにしてきました。それでも、このまちを誇りをもって語るまちの方々の姿に心を打たれました。その想いが広がっていけば、伏木はきっと、復興を超えた未来へと歩みを進めていくことができると思います。私たち大学も、より良い伏木の未来に向けて、皆さんと共に考えていくことができればと思います。



2026年3月発行

発行 伏木地区復興ロードマップ推進委員会

制作 富山大学藪谷研究室・東京科学大学真野研究室

協力 高岡市

「復興ベース（仮）」の試行（案）

本市では、災害復旧工事のために上下水道の使用を制限される住民の「仮住まい」場所を設け、工事中における生活不便の緩和と工事進捗の円滑化・迅速化を図っている。

JR伏木駅に隣接する既存の賃貸集合住宅を令和6年度から令和8年度までの期間で市が借り受け、居室を復旧工事中の「仮住まい」場所としてこれまで利用しているが、令和8年度は1階店舗部分であった空きスペースも活用できることとなった。

この空きスペースを「復興ベース（仮）」と呼び、次のとおり試行する。

【「復興ベース（仮）」の試行内容】

- ①試行期間を令和8年4月1日から1年間とし、鍵は市が保管・管理
- ②復興のための地域の方々同士の会合に貸し出し
- ③フィールドワークや視察対応の控室など現地会議室として活用
 - ※運用方法は伏木コミュニティセンターと同様とする（事前予約、鍵の受け渡し、使用後の片付けなど）
 - ※持ち込みによる飲食は「可」
 - ※復興を目的とした利用は無償

【留意点】

- ①今後、施設内を確認した上で利用を開始
- ②破損・汚損等は利用者の責任で対応
- ③令和8年度末までにオーナーに明け渡し

<位置図>



<外観>



<内部（1階店舗部分）>



1年間の試行の間に、

- ・「復興ベース」に適した場所を他に探し、令和9年度以降の機能継続を検討（例：空き家の活用、コンテナハウス設置等）
- ・地域団体による「交流サロン」の開設実現に向けた課題の洗い出し（担い手、資金、運用方法など）

を行う。